白亜通信

2022.12.23 No.42

HAKUA TSŪSHIN

岩手県立盛岡第一高等学校白堊同窓会事務局



自在の威力 ここにあり

県営球場最後の夏

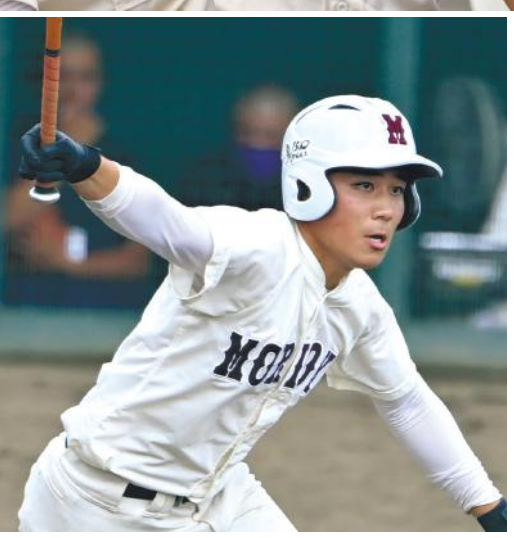
12年ぶりベスト4

本気で目指した44年ぶりの甲子園。
盛岡一は勝負強い打撃で
公立勢唯一の4強進出を果たした。
強力打線を相手にエース藤平聖生（3年）が奮闘。
1回戦から5試合で計533球の力投を見せた。
2020年の独自大会を含めて3年連続の8強入り。
夏に強い盛岡一が戻ってきた。

















目次

p.4 …… 同窓会だより
p.5 …… 一高生の魂食をたずねて
p.6 …… 総会記念講演
p.8 …… 愛すべき街「盛岡」
p.14 … 支部だより

〒020-8515 岩手県盛岡市上田 3-2-1 TEL・FAX (019)624-0765（白堊記念館） mail：info@hakua1880.jp TEL (019)623-4491（学校）
http://www2.iwate-ed.jp/mo1-h/（学校） https://hakua-dousoukai.jp/（同窓会）

ご挨拶



白聖同窓会会長　**藤尾 善一**（昭和45年卒）

会員各位には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。ご承知の通り、総会につきましては、コロナ感染症の蔓延により令和２年度、３年度の開催はいずれも中止のやむなきに至りましたが、本年、爽秋の佳日、３年ぶりに開催することができました。ご尽力いただいた梅津校長先生はじめ盛岡一高当局並びに今年度主管の平成８年卒の方々に深く感謝申し上げる次第です。

総会には昭和20年代卒業の大先輩から平成31年卒の現役大学生までの多世代にわたる同窓生、在京白聖会はじめ各地区の白聖会、職場ごとの白聖会、各部ＯＢ･ＯＧからなる白聖会など多くの方々にお集まりいただいたことは誠に慶びにたえないところです。

懇親会は残念ながら控えさせていただきましたが、参加規模は例年には及ばずとも、やむを得ず参加できなかった方々の分も含めた母校への熱い思いの発露は例年以上ではなかったかと、意気軒昂たるM旗のリードでの久々の校歌斉唱(声は出さず、心での)に感じたところです。

さて、このたびの総会では、役員改選があり、私の会長職の留任をお認めいただいたところです。微力ながらも同窓生の思いをしっかり受け止め、会員相互の親睦を深め、後輩の育成と母校発展のため引き続き全力を傾注してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

特に今後力を入れたいのは、母校創立140周年を機に創設した、各界第一線で活躍する同窓生からなる人材バンクの充実です。それにより、後輩諸君のキャリア教育を支援してまいります。

奨励費による後輩の部活動への激励支援等も進めてまいります。

また、同窓生の親睦を深めるための交流については、懇親会や応援旗祭はコロナ禍で残念ながら中止しましたが、今年の総会の席上においても強く要望されたところです。同窓生全員の切なる気持ちと受け止め、今後は感染対策を講じた上で、これまでの中止の分を挽回するほどの盛大なる開催を目指してまいります。併せて、交流の活発化のためウェブサイトの積極的活用や白聖通信の充実を図ってまいりたいと存じます。

ところで、我が同窓会は、大正13年(1924年)に結成され、２年後の令和６年(2024年)に100周年を迎えます。これまでの先人の強い母校愛の連なりにより今日があります。先人の熱い思いと確かなる実践の積み重ねに学び、今後におきましても後輩の育成と母校の発展のために、１万６千人余の同窓生とともに邁進してまいりたいと存じますので、皆様方の一層のご支援とご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

三つの時代を一高で過ごして



校　長　**梅津 久仁宏**（昭和56年卒）

令和のいま、学校はＩＣＴ環境が充実しています。各教室には無線ＬＡＮ、大型提示装置、電子黒板が整備され、１年生は１人１台端末が実現、２・３年生も必要に応じて自由に端末が使える状況にあります。オンラインでの授業配信も日常的に行われており、新型コロナウイルス感染症の影響で自宅療養、自宅待機となった生徒も自宅で授業を受けられるようになっています。

生徒会活動にも活用され､生徒会の連絡やアンケートでもTeams、Formsが有効に活用されています。学校行事については、コロナ禍で運動会、白聖祭の一般公開がなくなり、応援歌練習も大きく様変わりしています。夏の野球応援は録音した音源を球場に持ち込むという形での実施となりました。生徒はM探（課題研究）などを通じて､様々な体験の機会が数多くあり､将来､国際社会でグローバル人材として活躍できる力を身に付けています。

平成中期の９年間（平成13年～平成22年)、私は本校に教諭として勤務しました。黒板と教科書、解説と演習の授業で、授業の中でのパソコン利用はあまりありませんでした。教員がテストや教材を作成する際、生徒がレポート等を作成する際にはパソコンを使って行う時代にはなっていましたが、日常的に先生が教室にパソコンを持ち込んで授業を行うことはありませんでした。現在の校舎が完成したのもこの頃（平成11年）で、県内屈指の恵まれた教育環境の下で教育活動が行われました。

運動会ではこの頃はすでに「猛者踊り」となっており、白聖祭ではお化け屋敷や模擬店などお祭り的要素が大部含まれてきました。もちろん文化、芸術の発表のレベルも高く、生徒の自主的な生徒会活動が行われていました。また、本校は長い間修学旅行的行事が行われていませんでしたが、この頃研修旅行が行われるようになりました。学校５日制となり、土日の自主的な時間の使い方が生徒に求められるようになりました。

昭和後期の３年間（昭和53年～昭和56年)、私は生徒として本校で高校生活を過ごしました。テストは手書きで、その字で今回の出題が何先生なのかわかりました。個人情報への意識がまだまだ低い頃で、実力テストの上位者や大学合格者が実名で職員室前に掲示されました。

「土人踊り」の腰蓑は中津川に行き草をむしって作り、棒はどこからか各自で準備しました。M門作成のため、主に１年生には杉の葉取り、杉の葉付けという作業がありました。校舎が古くあまり奇麗でなかったこともあり、よくないことですが土足をしている生徒が少なからずいました。夏の野球応援の一体感は言葉では表現できない圧倒的なものでした。

時代とともに白聖の生徒、一高の教育は変わってきていますし、今後も変わっていきます。先日、第二体育館南側にある「蔵」に入ってみました。蔵には、上記の３つの時代よりもさらに前、戦前戦後の昭和時代、大正時代、明治時代の貴重な書物や学校関係書類が数多く残されています。短い時間で全てを詳細に見ることはできませんでしたが、その時代に本校で学んだ生徒、本校で働いた職員を思い浮かべ、脈々と繋がっている同窓生の絆を感じました。そして、改めて本校に勤務している喜びと誇りを強く持ちました。

どの時代の生徒もみんな「一高が好き」という強い気持ちで、思う存分高校生活を謳歌してきました。「一高が好き」ということこそが、本校の同窓生の絆であり誇りであると考えています。私も一高が大好きです。一高を愛する同窓生の皆様には、今後とも本校へのご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

総会報告

平成8年卒　年次代表　**高村 亮**

令和4年10月15日、白聖同窓会総会がホテルメトロポリタンニューウィングにて開催されました。コロナ禍により令和2年、令和3年と中止になっていましたので、今回が3年ぶりの開催となり、参加者114名による、対面による活気溢れる総会となりました。

今回の総会では、開催されなかった令和2年度と令和3年度の事項についても報告がされました。コロナ禍で同窓会の行事も一高の行事もかなり制約を受けたことを実感します。この状況の中でも可能なことに精一杯取り組もうという意志が、藤尾同窓会長、梅津校長の挨拶で感じられました。

第2部では、同期である株式会社LIGHTzの代表取締役CEOの乙部信吾さんによる記念講演「地域創生×AI起業～地元愛の先に考えたこと～」が開催されました。新時代の『伝統のあり方』を創るAI企業であるLIGHTzがいかに思考をAI化するか、それにより企業やスポーツチームの発展に貢献していること、別分野の熟達者をいかにものづくりにつなげるかなど、興味深いテーマについての紹介の中で、乙部氏のAIについての考え、およびその活用について知る貴重な講演となりました。講演の中では、「地域創生」に拘ること、地域のランドマーク構想の中で「地元愛」×「新しい働き方」をコンセプトにしていることが語られましたが、そのコンセプトの根底にあるのが、一高での授業や恩師からの指導の中に存在すること、特に『忠實自彊』の精神に基づいていることを熱く語る姿を見て、私自身も自分のルーツが母校に存在するのだと改めて実感する機会となりました。

総会は校歌での締めとなりましたが、母校を象徴する校歌斉唱も、司会の「皆様には心の中で歌っていただきますようお願いいたします」の言葉の通り、斉唱はできませんでしたが、谷地舘、大森、吉田各常任幹事のリードにより、感極まる時間を共有することができました。

主管である平成8年卒業生を代表して、以上総会報告とさせていただきます。この場をお借りして、今回の総会開催に当たって準備してくださった方々、参加された同窓生の方々に感謝の意を表したいと存じます。本当にありがとうございました。コロナ禍が落ち着き総会後の全体懇親会が開催できることを切に願いながら、今後も同窓会運営に携わっていく所存です。母校の更なる発展を願うとともに、同窓会の更なる発展を願います。よろしくお願いいたします。






令和4年度白聖同窓会新役員

会長	藤尾	善一	（昭和45年卒）	留任
副会長	林	晶子	（昭和46年卒）	留任
副会長	髙橋	瑞彦	（昭和52年卒）	留任
副会長	千葉	隆史	（昭和60年卒）	新任
副会長	西野	文香	（昭和61年卒）	新任
副会長	梅津	久仁宏	（昭和56年卒）	留任（校長）
監事	工藤	重信	（昭和50年卒）	留任
監事	高橋	宏弥	（昭和53年卒）	新任
監事	斎藤	正義	（昭和54年卒）	新任
顧問	佐藤	有	（昭和54年卒）	新任（前校長）

常任幹事長	藤澤	和義	（昭和52年卒）	新任
常任幹事	森	義真	（昭和47年卒）	留任
常任幹事	中野	孝之助	（昭和48年卒）	留任
常任幹事	内山	篤美	（昭和49年卒）	留任
常任幹事	菊地	研也	（昭和53年卒）	留任
常任幹事	佐久山	衛	（昭和61年卒）	留任
常任幹事	谷地舘	勝	（平成元年卒）	留任
常任幹事	大森	健一	（平成2年卒）	留任
常任幹事	城	守まゆみ	（平成3年卒）	新任
常任幹事	菊地	宏明	（平成5年卒）	新任
常任幹事	吉田	伸	（平成12年卒）	新任
常任幹事	早野	俊一郎	（平成13年卒）	留任
常任幹事	和田	健利		留任（副校長）

令和４年度 白聖同窓会一般会計予算

収入　（単位：円）

科　目	予算額	前年度予算額	比　較	摘　要
繰越金	7,554,625	3,546,931	4,007,694	前年度一般会計より
会　費	9,000,000	9,000,000	0	令和３年度分 4500件
入会金	556,000	554,000	2,000	3学年分（278名×200円×10ヶ月）
予納金	1,464,800	1,471,600	-6,800	1学年分（282名×240円×10ヶ月） 2学年分（282名×240円×10ヶ月） 3学年分（278名×40円×10ヶ月）
繰入金	0	0	0	財産積立金から
雑収入	4,575	7,469	-2,894	預金利息、宛名シール代
計	18,580,000	14,580,000	4,000,000	

支出　（単位：円）

科目	予算額	前年度予算額	比　較	摘　要
事務費	380,000	380,000	0	事務用品(封筒・トナー等含)、 郵送代払込手数料、建物共済加入負担金、 記念館施設使用光熱水量代
慶弔費	230,000	230,000	0	各白聖会派遣祝金、会議参加費、弔電代
旅費	250,000	250,000	0	各白聖会派遣旅費
会議費	300,000	300,000	0	卒業年次代表者会議、役員会、 常任幹事会、編集委員会
事業費	700,000	700,000	0	新入生入学記念品代、 ウェブサイト管理運用費、応援旗祭
総会関係費	700,000	0	700,000	総会資料作成費等
キャリアアップ講演会費	150,000	150,000	0	講師謝礼、旅費
名簿作成費	1,500,000	150,000	1,350,000	卒業生データ入力費等（サラト分を含む）
会報刊行費	3,100,000	3,100,000	0	白聖通信42号印刷費、郵送費
事務局員費	1,800,000	1,600,000	200,000	事務局員給料、退職積立金、健康診断代
国際交流費	1,500,000	1,500,000	0	白聖の翼（白聖振興会へ）
財産積立繰入金	1,000,000	750,000	250,000	
周年事業費特別会計繰入金	3,674,009	2,000,000	1,674,009	周年事業特別会計へ
部活動等奨励費	1,200,000	1,200,000	0	上位大会出場部、応援委員会
夜間照明設備費	250,000	250,000	0	夜間照明設備特別会計へ
会費振込手数料	935,500	935,500	0	
予備費	910,491	1,084,500	-174,009	
計	18,580,000	14,580,000	4,000,000	

令和３年度 白聖同窓会一般会計決算

収入　（単位：円）

科　目	予算額	決算額	比　較	摘　要
繰越金	3,546,931	3,546,931	0	3年度より
会　費	9,000,000	8,390,000	610,000	令和3年度入金 4,195件
入会金	554,000	548,600	5,400	3学年分
予納金	1,471,600	3,134,209	-1,662,609	1・2・3学年分、周年事業協力費
繰入金	0	0	0	
雑収入	7,469	100,318	-92,849	預金利息、宛名シール代、寄付金、名簿売上金
計	14,580,000	15,720,058	-1,140,058	

支出　（単位：円）

科目	予算額	決算額	比　較	摘　要
事務費	380,000	346,459	33,541	電話代(インターネット通信費含)130,173円、事務用品166,705円、払込手数料880円、郵送代36,558円、残高確認書3,520円、職員録4,620円、白聖記念館施設使用光熱水量代2,510円、建物共済加入負担金13円、タクシー代1,260円、現金払込手数料220円
慶弔費	230,000	14,188	215,812	弔電代
旅費	250,000	0	250,000	
会議費	300,000	143,175	156,825	役員会、常任幹事会、編集委員会
事業費	700,000	657,800	42,200	新入生入学記念品代、ウェブサイト管理運用費
総会関係費	0	0	0	
キャリアアップ講演会費	150,000	0	150,000	
名簿作成費	150,000	145,200	4,800	名簿作成代(データ移行作業分)24,200円 卒業生データ入力費121,000円
会報刊行費	3,100,000	3,000,000	100,000	41号印刷費、郵送代
事務局員費	1,600,000	1,588,868	11,132	事務局員給料、退職積立金、健康診断代
国際交流費	1,500,000	0	1,500,000	
財産積立繰入金	750,000	750,000	0	財産積立通帳へ
140周年事業費負担金	2,000,000	0	2,000,000	140周年事業特別会計へ
部活動等奨励費	1,200,000	552,000	648,000	
夜間照明設備費	250,000	250,000	0	夜間照明設備特別会計へ
会費振込手数料	935,500	717,743	217,757	振込手数料698,493円、通知票受取代19,250円
予備費	1,084,500	0	1,084,500	
次年度繰越金	0	7,554,625	-7,554,625	
計	14,580,000	15,720,058	-1,140,058	

同窓会だより

卒後50年を迎えて

昭和47年卒　年次代表　松本 静毅

私どもの年次は、今年卒業50周年を迎えました。20周年の１９９２(平成４)年に、年次の同窓会を初めて行い、以来5年ごとに開催を続けてきました。

本来であれば、今年は50周年記念として行う予定だったのですが、新型コロナウイルスの感染が収まらず開催を断念しました。皆が再び心置きなく集まれるようになったら、５年後といわず開催しようと申し合わせています。

５年前(45周年)の写真を掲載しますが、この時ご列席いただいた恩師の高橋力先生、近江昭先生は、残念ながら鬼籍に入られました。

10年前の２０１２(平成24)年には、卒業40周年の記念文集「露台(バルコン)」を作りました。このタイトルは、いうまでもなく啄木の歌「盛岡の中学校の　露台の　欄干に最一度我を倚らしめ」に拠るものです。多くの同期生からのエッセイや一言メッセージが綴られており、また恩師からの暖かい励ましの言葉もいただきました。いま読み返すと、東日本大震災・津波の直後の時期であり、その影響が色濃く映し出されていることを感じます。





ところで、50年という歳月は、日々の出来事を歴史上のものに昇華させるものだと感じています。

今年は沖縄の復帰50周年ですが、それは私どもの卒業した１９７２(昭和47)年の５月の事でした。また、2学年だった１９７０(昭和45)年には、1巡目のいわて国体が開催されました。新しい道路、新しい建物が矢継ぎ早にできる様を目にしました。

母校の歴史においても、私どもの年次は理数科が設置された初年度に当たります。「女性は理数系には向かない」などという妄信が一部にまだ残っていたように思います。理数科の第1期生として入学した女子はわずかでしたが、その志は時代を拓いたと思っています。

まもなく古希を迎えるわが年次です。第一線を退く仲間も多くなってきましたが、一方でまだまだ現役を貫く者も少なくありません。いよいよ元気に第2の人生を歩む者もあります。健康に留意し、同期の仲間と再び集まる日を待ち望んでいます。

未熟者だった私どもを受けとめ育ててくれた母校には、深く感謝しています。その発展を願い、若き後輩諸君には心からのエールを送ります。

卒業30周年について

平成4年卒　及川 寛太

卒業して30年も経過した実感はあまりありません。羽球部で友人達と過ごした時間は、49歳になっても昨日のことのように思い出されます。愛木隆君とは今でも2週に1回は会い、仕事やプライベートを通じて楽しく過ごしています。そうは言っても、確実に時間は流れていると感じた近況報告があります。

宮古にはウミネコにパンをあげることができ、楽しく、子供が喜ぶ遊覧船観光があります。子供の頃、私も両親に乗せてもらった記憶があります。一度は皆様も経験があるのではないかと思います。しかし、その遊覧船は老朽化で令和3年1月に58年の歴史に幕を下ろしました。でも、多くの市民から切望され、新たに宮古市が遊覧船を建造し、令和４年5月に進水式が行われ運行開始されました。その記念に船上ウェディングを執り行うカップルが公募され、私の職場の職員が当選しました。光栄なことに私も上司として招待状を頂き、披露宴の主賓挨拶も引き受けることになりました。私はまだまだ若いつもりで、主賓挨拶など照れくさい感じでしたが、久しぶりの宴を楽しみにしていました。そして結婚式当日、私はさらに楽しくなるのです。



7月17日に就航した新遊覧船「宮古うみねこ丸」

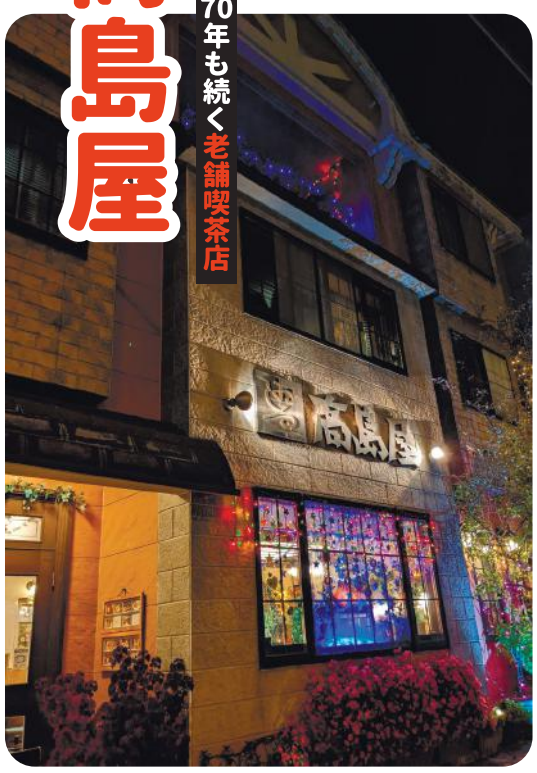
船上ウェディングに参加するため宮古港に向かうと、乗船場に荻野義信君が来ていました。同じ結婚式に招待されていたのです。再会を喜び、会話も楽しみ、挙式に感動しました。挙式の最後に、全ての乗船者にパンが配られました。私と荻野君は、いい年になったおじさんであることも忘れ、ウミネコにパンをあげることにはしゃいでしまいました。楽しい時間が過ぎるのは早いもので、あっという間に披露宴の時間となりました。披露宴会場では荻野君と私はテーブルも一緒でした。新郎新婦の華やかな入場も終わり、いよいよ主賓挨拶です。私は新婦の主賓ですので挨拶は2番目です。1番目の新郎側の主賓はどなたかなと思いながら、会場に司会の声が流れます。「それでは、新郎の上司でございます荻野義信様お願い致します」。なんと、新郎の上司は荻野君ではありませんか。再会してからは話すことがたくさんあり、主賓挨拶の話はお互い出てきませんでした。高校の同級生同士で、そんなシチュエーションになるとは思ってもみませんでした。お互い高校、大学、医師になってからも立派でないエピソードを知る仲です。新郎新婦、そしてご両家のため全力で挨拶させていただきましたが、お互いの挨拶の立派な立派な内容を聞き、なぜか、恥ずかしく、照れくさい感覚が押し寄せてきました。

世の中いろいろ困難もありますが、これからも、ポジティブシンキングで楽しく年を重ねていければと思っています。

高島屋

およそ70年も続く老舗喫茶店

現在の高島屋



おおよそ70年も続く老舗喫茶店「高島屋」。その歴史は一高生とともにある、と言っても過言ではありません。

店の看板には「since 1955」とありますが、実は定かではないとか。「お客さんから、もっと前からオープンしていたという話もありました」と2代目店主岡田さん。1代前の店舗は大正時代をイメージしていましたが、2003年、上田の道路拡張工事に伴いリニューアルした現在の店舗は、明治時代の洋館をイメージ。近くに岩手大学や盛岡一高があることを意識したといいます。



人気メニューのピザもち

その昔は岩手医科大学、盛岡三高、岩手高、盛岡白百合学園高、盛岡工業高なども近くにあり、店内は常に学生であふれていました。

1970年代に見直して以来、メニューは変わっていません。賄いから誕生したカレーうどん、おしるこ、かきごおり―。一高生の思い出の味がたくさんあります。

かつては、しなそばも提供し、1日に250杯売れたことも。しかし人気の品がメニューから姿を消したのは「ちゃんとした食事をしてもらいたい」という店主の想いから。

その想いは「ひっつみ定食」となり、寮生はじめ一高生の食生活を支えました。県内の飲食店でひっつみが売れ筋商品になるきっかけを作ったのは高島屋だと店主も自負しています。学生時代から20年以上、ひっつみしか食べない常連客もいるほどです。

「ピザもち」も看板メニュー。ピザがまだ流通していなかった時代、東京にいた店主がピザを初めて食べた時、これを餅でやったら面白いと考案しました。餅は今も変わらず杵つき。機械は使いません。

昔は、冬にかきごおりを食べに来る下駄履きの応援団や、授業がなくなったといって店に来る生徒もいたとのこと。文化祭で店ののれんを貸し出したこともあるそうです。卒業式の日は卒業生のみ入店可としたこともあり、その日の注文が全員ピザもちで一日中オーブンの前にいたという伝説も。

時代とともに、生徒の印象も変わったよう。「80年代は羽振りもよく、面白みのある生徒が多かったです。今の子は真面目でおとなしい。それでもおそらく変わらないのは、一高生の影響力の大きさ、人を呼ぶ力、先導する力でしょう」。岡田さんはそう力を込めます。

柳家

唯一無双のラーメン



柳家総本店前に立つ大信田和彦社長



柳家名物のキムチ納豆ラーメン

「キムチ納豆ラーメン」が看板メニューの柳家は、長く一高生の胃袋を満たしてきました。

1975年開店の柳家は現在岩手県内を中心に11店舗に拡大し、ベトナムのハノイにも出店。キムチ納豆の他にも「岩手山」などユニークな名前のメニューを多数提供しています。

約20年前までは、盛岡市大通のさわや書店3階の1店舗のみで営業していました。社長の大信田和彦さんに、当時の一高生の印象を伺いました。

「一高、岩手高、岩手女子高の学生がよく食べに来てくれていました。20年たった今でも学生時代と変わらず足を運んでくれるお客さんもたくさんいます。当時の一高生といえば、平日の明らかに授業中であろう時間帯にも関わらず、店が空いている時間帯を狙って来店していました」と笑顔で振り返ってくれました。一高の印象は「自由な校風」。社会人として経験を重ね、さまざまな一高OBと知り合い「その自由な校風が現在の地元経済に大きな影響を与えていると深く感じます」と言います。大信田さんは不来方高ハンドボール部出身。高校時代、一高との練習試合の帰りに近くの「あまから」という駄菓子屋に寄っていたことが懐かしい、と話してくれました。

現在、大通の柳家店舗は移転し、当時の風景は見ることができなくなりましたが、大信田さんは今でも菜園の総本店で懐かしい味を提供しています。

福田パン

盛岡市民にとっての魂食

盛岡バスセンター内の中ノ橋店





人気1位のあんバター

高生はもちろん、盛岡市民にとっての魂食でもある福田パン。直営店で食べられる調理パンはどれも絶品。昼食だけでなく、小腹の空いた部活前や、業間の隙間をみて食べていた卒業生も多いのでは。

長田町本店は以前、午後7時まで営業し（現在は午後5時まで）、電車通学生を中心に一高生のリピート率は高かったそう。

同店、矢巾店、盛岡みたけ店に加えて、2022年10月4日、新盛岡バスセンターの開業に合わせて中ノ橋店がオープンしました。

社長の福田潔さんは「福田パンの特徴の大きなコッペパンは、戦後間もなく世の中が食事にも苦労する中、創業者で祖父の留吉が、学生たちに大きなパンを食べてほしいという想いから生まれました。近隣に学校が多く学生を含めより多くの方々と接点が持てると考え、出店に至りました」と新店舗への思いを語ります。

福田パンは直営店のほか、スーパーや高校・大学の購買部にも納品しています。「1948（昭和23）年の創業後間もなく、岩手大学に向けた納品を始めました」と福田社長。当時からお腹を空かせた一高生が校門を抜け出し福田パンを求める姿が目に浮かびます。

一高生のソウルフード魂食をたずねて

今も時折、高校時代に食べていたものが懐かしくなります。それは味だけではありません。店の装飾、店員さんの声、友達と笑いあったこと。その空間にあった全てのものが一緒によみがえります。この特集を担当した平成14年卒の同窓生の声を中心に、当時の思い出を形づくり、今もなお愛されている「一高生の魂食（ソウルフード）」店を訪ねました。

（平成14年卒　川端諒、有坂一樹、藤村恵玉）



懐かしの一高生ソウルフードMAP

編集後記

卒業してから20年が経とうとしている私たちだけではなく、多くの先輩方や後輩たちにも思い出のソウルフードがあると思います。今でもその味を求めてしまうのはなぜでしょうか。「学生時代に戻ることができるからでしょう」。そう高島屋の店主が話していました。高校時代を彩ってくれた店は、いつまでもそこにあり続けてほしいものです。当時のようにその店に足を運ぶこと、それが今の私たちにできる恩返しなのかもしれません。（平成14年卒　藤村恵玉）

記念講演

地域創生×AI起業

～地元愛の先に考えたこと～



講師
株式会社LIGHTz　代表取締役CEO
乙部（おとべ） 信吾（しんご） 氏（平成8年卒）

略　歴

1996年	盛岡一高卒業
2001年	上智大学理工学部卒。キヤノン株式会社入社。生産技術部門に配属
2011年	災害ボランティアとして１年間、陸前高田市で活動。株式会社Ｏ２入社（製造業向けコンサルティング）
2014年	山形県河北町の中小金型メーカーIBUKIに経営参画
2016年	株式会社LIGHTz創業、代表就任（AI開発ベンチャー）
2019年	佐賀、有田ランドマーク（地域拠点）設立
2020年	盛岡ランドマーク設立
2022年	盛岡市中央公園（BeBA TERRACE）に新棟設立予定

「地域創生」を目指し、東京ではなくつくばで起業。

高校時代、唯一自慢できるのは、高校生クイズ全国大会に岩手県代表で出場したことです。本選は運悪く勝ち上がれませんでしたが思い出になりました。当時3人チームで出たんですが、その親友2人と、よく桜山神社前の三平食堂に集まりクイズの勉強や、学校の勉強をしました。今の子どもたちからするとラーメン屋で勉強するなんて信じられないと思います。剣道部に所属していました。ただ、道場で竹刀を見た回数よりも、おそらく授業中に竹刀を見た回数の方が多かったのではと思います。「非常に厳しい」教育環境で育てていただきました。

大学卒業後にキヤノンに入り、レンズの研磨工程の生産技術の仕事を10年間しました。30代になり、より広く、ものづくり分野に貢献したくてコンサルタントの仕事を選び、その後現在の企業を起こしました。昨今の経済状況を鑑みると、テックベンチャーとかメディア系の企業は、株価の下落率がかなり大きく「ベンチャー冬の時代」とも言われています。そうした中で今の仕事を選び、邁進しています。

ＡＩ開発ベンチャーを２０１６年、茨城県つくば市に創業しました。学園都市研究都市で、テックベンチャーを立ち上げるのであればここ、と場所を決めました。「地域創生」を目指し、東京ではなく、あえてつくばで起業しています。それから積極的に地域拠点を展開し２０１９年に佐賀県の佐賀市、有田焼の産地である有田町、２０２０年には盛岡の拠点を立ち上げました。

私どもの事業は「汎知化（はんちか）」と呼んでおります。「暗黙知を形式知にする」という言葉があります。暗黙知は頭の中で考えていること、属人化されているもの。形式知はそれを形にして後世に伝えていく技術伝承の一つの考え方です。ものづくり向けのコンサルタントをしていた時に暗黙知、形式知を一歩先に進めようと「汎知化」の言葉を考えました。これはＬＩＧＨＴｚ（ライツ）の登録商標になっています。

形にしたものが常に新しい時代の変化に対して通用するわけではないと、コンサルタントの仕事で実感しました。私が暗黙知の形式知化をした一つに携帯電話のボタンの設計と、その形式知化があります。当時ボタンは実際に押す部分がありましたが、スマホになって画面上にソフトウェアとして表示される形に変わりました。せっかく携帯のボタンの押し具合や耐久性を設計者といろいろ考えて形式知化しても、残念ながら時代の変化に耐えられず、また別の仕事を探さなければいけません。

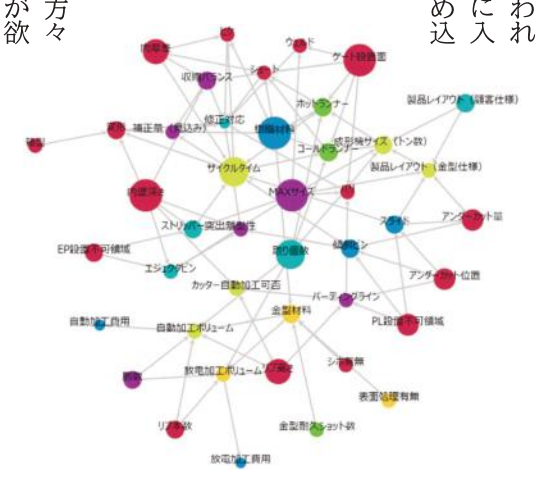
せっかく皆様が形式知化をするのであれば、その時代の変化を生き抜いていける、より成長、学習できるものにすべきだと思います。このスペシャリスト、熟練者の考え方を「ブレインモデル」というものに表して、成長性があるＡＩ、勉強していくＡＩに入れ、スペシャリストと次世代を担う若者を「気づき」という観点でつなげたいと、この事業を考えました。

スペシャリストと次世代を担う若者を「気づき」という観点でつなげたい。

スポーツの事業もやりました。東京オリンピックで金メダルを獲得した男子フェンシングのエペのチームを6年間支援しました。日本フェンシング協会の当時の太田雄貴会長と二人三脚で取り組み、いつも膝を合わせて強化モデルを作りました。太田さんが引退後に会長に就かれて『キング・オブ・フェンシング』のエペでメダルを取りたいので力を貸してほしい」とおっしゃっていただき、我々も迷わずにブレインモデルを作り、そのパターンを分析しながら筋道を立てる支援をしました。

創業のきっかけは２０１１年の震災です。私は当時1年のうち3、4ヶ月、陸前高田に住み込んで支援をしました。しかし1年も経つとやることも少なくなりました。その中で、地元の方々と食事したときに失礼ながら「何が欲しいですか」と聞くと、ほとんどの方が「仕事」とおっしゃった。私は当時コンサルティング会社に勤め先を変えたばかりでしたが、まだ一介のサラリーマンでしたので、仕事をつくってくれと言われても今はできないと思いました。ただ、皆さんが求めるのであれば、一生懸命それをやるべきだと使命を感じました。起業しなければ、自分が社長にならなければ、仕事を作らなければ、といろいろ考えて社会課題である事業承継や技術伝承の取り組みを始めました。

最初に着目したのがスペシャリスト熟達者で、モデルを山形県の金型メーカー「ＩＢＵＫＩ」と一緒に作りました。経営参画して、金型を磨き上げて作り上げるスペシャリストの知見のブレインモデル化に最初に取り組みました。技術伝承はなかなか難しいものです。背中を見て覚えることが正解ではないと分かるが、だとしたら何をすればいいのか、答えはなかなか出ませんでした。そこでＡＩを使い人工的に知の思考を再現できるシステムを作って、それを手元で使えるものにしようと考えました。それによって地域の宝をしっかり地元に残し、若い世代にも伝わりやすい状態にできるのではと考えました。



ブレインモデルのイメージ

社内情報共有システムをメーカーに使っていただき、調べものをするとブレインモデルがアシストしてくれたり、ブレインモデルの参照ができることで技術伝承する仕事をメインにしています。

ライオンさんとは、歯磨き粉の匂いと味を作るフレーバーリストという職業の方が、頭の中でどう組み立てているのかブレインモデル化して、フレーバーの調合を簡素化して若い人もできるように開発しました。ＪＡＸＡさんとは宇宙機器の開発マネジメント関連で、地上の条件を含めて仮想で考えていく人の頭の中をモデル化して、宇宙で失敗しないような機器作りをしました。

AIと人の一つの共通点に着目しました。人には特徴をつかむ特性があります。AIはざっくり言うと特徴量の計算機です。目の前のデータの特徴を量で定めて、多いならば特徴がある、少ないならば特徴がないと見立てて計算します。

AIや熟達研究の中で熟達者のことを「エキスパタイズ」と言います。エキスパタイズ、熟達性が何かといえば二つあると考えます。一つは「定点観測性」です。もう一つは直感的に複数の情報を繋げて答えを出す「直感的思考」です。学術分野の「オントロジー」という考え方が直感の構造を模すものに非常に近く、こうした技術を活用しています。ただ、一つの言葉や特徴があったとしても、それをどう繋げていくのかには相当個性があります。

これを金型業界の見積もりに当てはめます。例えば金型メーカーがメーカーから仕事をいただくときに、いただいたプラスチック製品の図面の形を見て何とか考えて、お金の情報に変える思考をさせられることがあります。当然その専門家でなければ図面やモデルを見ただけでは、お金の情報には変えることができません。一方で専門家はこの形に対して思考やナレッジを組み合わせ、何もない真っ白なモデルを見た瞬間にパパッと見るところを決め。かつ何を考えなければいけないか思い付くからお金の情報が出てきます。



IBUKIでの金型の見積もりの例があります。図面の改善モデルのアウトプットで、メーカーさんから「明後日までに見積もりよろしく」と依頼がFAXで来る。何社に見積もりを出したのか、自分のところに仕事が来るか分からないので、あまり手間をかけられない。それでも受注できた時に苦労するので、一生懸命考えます。でも忙しすぎて実際にお客様に回答するのは期限と金額だけ。それしか出さない見積もりであれば、10社に相見積もりされていれば、他社とはコストや納期でしか差をつけられない。こうしてどんどん地域の企業や金型のような斜陽産業は買い叩かれますし、安さ以外の魅力で評価されることはない。でも、うちは図面を一生懸命見て、ここまで考え、ここまでケアしていますとお客様に出せれば「ここまで見てくれるんだ。安心だね」と付加価値がつけられます。その人が思考しているものをデジタル化したり、それを形に表すことは重要だと現場で説きながら、金型メーカーを改革してきました。今はいろいろなメーカーさんにお邪魔をしています。

社員と一緒に作り上げている考え方の一つに「地方」と「地域」の厳正な使い分けがあります。「地方創生」「地域創生」。どちらも同じような言葉で使われていますが、地方は大都市という中心があり、そこからの地方とか田舎のような雰囲気があります。

私どもが作りたい姿は、地域はそれぞれの「域」、リージョナルなエリアということ。それぞれが個性を持ち自立分散的に存在している状態です。地域的な発想で過ごしていれば、子供たちの見方も変わると思います。子どもの未来に選択肢を残すことが、大人が取り組んでいくべきことだと思いますし、ものづくり、人づくりに子どもたちが興味を持つよう、地域創生の活動を社を挙げて行っています。

この20年間で製造業全体の従事者は160万人ぐらい減りました。中でも34歳以下が125万人減っています。残念ながら若い人たちが魅力を感じる産業になっていません。

東北地方の金型屋でいうと、正確な数字ではないですけども500ぐらいあった会社が震災前後で100社ほどに減っていると当時言われました。IBUKIはその中で生き残れた会社ですが、実は最高40億円だった売上高が一時2億円になりました。7期連続赤字で、売り上げも20分の1になった会社の経営に入らせてもらい、AIの活用などをやりました。その後は6期中5期黒字、売り上げは昨年度で12億円、従業員も60名にまで回復しました。先ほどの暗黙知の形式知化、転じて汎知化の効果がありました。

今まさに進めている改善事例が盛岡市の南部鉄器です。南部鉄器は若手の職人が増えています。ただ、教え方は口頭での伝承が主流で、師匠が言った通りにやればできるけれど、どうしてそうなるのか理由が分からないまま進んでしまう。経験値が積めない若い人たちは、頭の中で考え方が練り上げられない課題があります。今、2人の熟達者のブレインモデルを作って若手の教育に生かす活動を進めています。1人は盛岡を代表する南部鉄器の職人で伝統工芸士の田山和康さん。もう1人は岩手大学で鋳造技術を教えている平塚貞人教授。この第一人者同士の、片方は経験と直感、片方は理論と理屈の考え方を組み合わせています。

南部鉄器で通称「ふかれ」と言われる不具合があります。鉄器の底面でガスが発生し、変な形の穴が開くものです。原因はガスの発生と分かっていますし、ガスの発生を抑える方法も現場では分かっています。田山さんは師匠としてふかれが起こったときに鉄を溶かす温度を高くするとか、砂の乾燥をしっかりすればいいとか、湿度の影響をこう気にすればいいとか、何でも解決できます。

ただ、これを聞いた若い人たちは、師匠から言われたものはできるけれど、なぜそうなるかが分からないので、新しい問題に対処できない。そこで平塚教授に、出たガスの種類や、どういうメカニズムなのかを一つ一つ丁寧に解説していただき、田山さんが話すことを現場の方に伝えるときに、理由も添えて伝えています。

このブレインモデルや理屈を入れた新しい「教科書」もデジタル上で作っており、これができると、自分たちで考えることができる職人さんが増えると思います。この冬には盛岡の中央公園のビバテラスに私どもも出資して「てつびんの学校」を作ります。地域の産業、伝統工芸にもコミットして新しい教育の姿、子どもたちの未来を作ろうと思っています。

夢として、この「地元愛×新しい生き方」を確たるものとしていきたいです。「地域ランドマーク構想」を立てました。通常、会社法では本社が茨城県つくば市にあると盛岡の拠点は支店となりますが、私は支店という言葉は使いません。それは地方を定義するもので、地域を定義することにならないからです。地域の目印になる会社をそれぞれの地域の自立性で立ち上げてほしい、その地域に来てその地域に育ち、その良さも、欠点も、事をなすことの大変さもちゃんと分かっている社員たちが、苦難の道をしっかり結び地域の誇りを生んでいく。そういう会社にしたいのでランドマークという言葉を使い、積極的に進出しています。

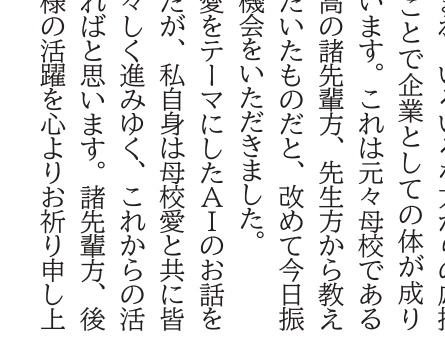
ただ、コロナの環境下で非常に苦労もしています。経営者としての非常に大きな失敗、責任なのですが、昨年、社員の半分をリストラせざるを得ない状況に追い込まれました。パートナー企業様に受け入れていただき、意志ある社員には自ら次の道を選んでもらい、何とか責務を果たせましたが、地域の企業として拠点から人を減らさざるを得ない状況は絶対起こすべきではないと改めて思いました。

最後に盛岡一高への思いをお話しします。受験勉強よりも、学校で先生方に鍛えていただく生活面であるとか、人間としてという部分の方が厳しかったので、母校から何をいただいたかを振り返ると、「忠實自彊」の言葉が思い浮かびます。私のベンチャーイズムの中にも根付いています。ベンチャーの仕事をする中で、自分の周りに壁や天井や他責的理由などを並べないようにしています。何か突破できる方法があるはずと考えていく中で様々な関係性が生まれ、いろいろな方からの応援を生むことで企業としての体が成り立っています。これは元々母校である盛岡一高の諸先輩方、先生方から教えていただいたものだと、改めて今日振り返る機会をいただきました。

地域愛をテーマにしたAIのお話をしましたが、私自身は母校愛と共に皆様が雄々しく進みゆく、これからの活力になればと思います。諸先輩方、後輩の皆様の活躍を心よりお祈り申し上げます。

コストや納期でしか差をつけられない
地域の企業は買い叩かれますし、
安さ以外の魅力で評価されることはない。

盛岡一高の「忠實自彊」は
私のベンチャーイズムの中にも
根付いています。



愛すべき街「盛岡」

タイトル　佐々木 豪（平成元年卒）



日本と世界とを行き来し、活躍する人材がスポーツ、文化、産業など各分野で増えています。地域から世界的な課題に向き合う人たちもいます。盛岡に住み、働きながら世界を見つめる伊藤淳之介さん（平成12年卒）は日本青年会議所公認のSDGsアンバサダー。学校や企業団体で講演を行う白聖同窓生の若手経営者に、未来の展望や高校時代の思い出を聞きました。

伊藤淳之介さん（平成12年卒）

㈱盛岡総合ビルメンテナンス代表取締役社長、高齢者介護複合施設ブライトステージ常務取締役などを務める。日本青年会議所公認のSDGsアンバサダーで、学校や企業団体で講演を行う。40歳。

高校卒業後から現在に至るまで、社長就任までの流れをお聞かせ下さい。



青山学院大学に進み、大学３年時に米カリフォルニアの大学に編入しました。大学２年時の2001年に米同時多発テロが発生し、世界で何が起きているのかを見てみたいという衝動から渡米しました。米国の大学ではNPOを立ち上げ、グループホームの運営にも携わりました。卒業後は日本で不動産金融関係（不動産ファンド）の会社に就職しましたが、リーマンショック直後に不動産管理の会社（プロパティマネジメント）に転職しました。10年に盛岡に戻り、現在の会社に入社、17年に社長に就任しました。

仕事で大切にしていることはありますか。

弊社のホームページにも載せている「三つの約束」を大切にしています。

▽環境保護に最大限配慮する企業であり続けます。（社会との約束）。

▽社員の尊厳を保障する企業であり続けます。（社員との約束）。

▽地域とお客さまが抱える課題を解決することにより適正な対価をいただく企業であり続けます。（お客さまとの約束）。

この三つです。根本的な話なのですが、意思決定する際にぶれないよう常に気を配っています。

コロナ禍で仕事上変化した事や、気付きはありますか。

除菌に対するニーズが相当高まり、清掃サービスも中身が一気に変わりました。岩手県内でも早い段階で自走式の掃除ロボットを現場に導入しました。今までは清掃に特化していたものが、除菌・消臭に注目が集まり始め、トイレの掃除や除菌を念入りに行う社会情勢へと変化しました。

人間とロボットの分業化が進む中で人間だからこそできる仕事がよりはっきりしてきたように思います。そのような仕事に集中出来る環境をつくりたいと思っています。

自社の業務にとどまらず、社会貢献活動にも積極的と伺っています。SDGs（持続可能な開発目標）について考えるきっかけは何だったのでしょうか。

不動産金融関係の会社在籍時、沖縄のリゾート開発プロジェクトの一員でした。リーマンショックで建設が頓挫した廃墟を目の当たりにし、自然破壊だけでなく200人の雇用が失われ、地域経済に大打撃を与えるという現実に大きな衝撃を受けました。この事が、自分がビジネスパーソンとしてどう生きていくかの指針になりました。

意思決定の際に自分の芯になる部分を探していた時に出会ったのがSDGsでした。しっかり学んで経営にも生かしつつ、県内企業・学校に精神を伝えていく使命感を持って活動を始めました。自分の周りの社会や人が良くならないと絶対に自社の繁栄はないと確信しています。SDGsに取り組む会社、その精神を持った会社を増やし、一緒に地域で経済活動していきたいと思ったのがきっかけです。

15年９月の国連サミットでのSDGs採択後、16年から研究し始め、研修を通じてや本を読み漁って知識を深めました。３年間は情報収集と実装する時間、計画に充てました。具体的に会社としてどうやっていくか、どういう考え方で向き合っていくかを決めてから、県内の企業・学校・経済団体に対するセミナーや講演を始めました。コロナ前の19年は岩手県内でも依頼は少なく、SDGsの認知度は現在よりかなり低かったです。中学生や高校生の反応の方が良いくらいでした。

青年会議所では自分たちの事業にSDGsのゴール番号を紐付けて、事業が何に貢献しているか意識できるように変え、SDGsについて▽社会貢献▽セミナーでの教育▽自社での具体的な行動ーの三つに取り組みました。セミナーは20年のコロナ感染拡大後に企業からの依頼が増え、21、22年も増加が続いています。コロナで営業のスタンスを大転換する業種もあった中でSDGsがトレンドとして捉えられていると感じました。県内で幅広く講演を行っています。県内各企業の取り組みをメディアで知ることができるようになりましたが、体系的な成り立ちや歴史を知っている人はまだ多くありません。全世界の事例を基に今後も活動を続けていきたいと思っています。

盛岡の街の魅力は何だと思いますか。

人間らしく人生を送れる街だと実感しています。サイズ感、穏やかさ、四季がはっきりしている気候などです。大都市ほどではないですが、一定の経済的規模も備わり住み心地がいいと思います。米国で留学した街も、構成は全く違いましたが盛岡に似ている点もありました。人が穏やかで犯罪率も低く、高齢者が元気に生活していました。

お気に入りの場所などあれば教えて下さい。

盛岡城跡公園や石割桜です。自分の子どもたちの通学・通園時に目に触れるたび、いい環境に恵まれているなと改めて感じます。

今回の白聖通信に「一高生のソウルフード」の特集がありますが、高校時代の思い出の味などがあれば教えて下さい。

柳家のラーメン（キムチ納豆）、じゃじゃ麺は今でも自分の生活の一部です。当時は学校を抜け出して福田パンを買いに行ったりしていました（笑）。

高校時代の思い出はありますか。どのような学生でしたか。

夏はサッカー、冬はアイスホッケーをやっていました。高校３年間ずっと部活をしていたので勉強した覚えはないです（笑）。当時の先生から「運動部を掛け持ちするやつは高校始まって以来だ」と言われました。

思い出のイベントは１年生の時の運動会です。運動会前に猛者踊りで市内を歩いて回ったことが思い出です。盛岡駅で観光客の方と遭遇したのですが、何の軍団かと、かなり驚いていたのが印象的でした。その時に一高の説明や盛岡の観光名所やグルメの話をたくさんしたんですよ。後日その品のあるマダムの方から感謝の手紙が届きました。「後から調べて県内一の進学校だと分かり、そこがこんな事をするのかと驚いた」という内容でした。手紙は先生から頂いて今も保管しています。少しでも盛岡の観光に貢献できたのではと、とても嬉しかった記憶があります。

最後に在校生へ一言お願いします。

社会人になるまで白聖のネットワークをそこまで意識したことはありませんでした。仕事、プライベート、何か新しい事を始めようという時に、県内外で活躍していたり、その道のトップランナーの方と出会えることは貴重な人脈だと思います。なんとかたどればその人に会えます。狭いコミュニティーだと思っていた白聖ですが、世界で活躍している人達がいます。在校生の皆さんにはネットワークがある事だけではなくて、自分もそういう所で活躍出来る、グローバルな人材になるポテンシャルがあるという事を知ってもらいたいです。

地元に戻ってきて思うのは、グローバルに考えてローカルで活動できるというのも一つの選択肢だという事。グローバルに羽ばたいていく人も、いろいろな所を見てくる人も、ずっと地元にいる人もいると思います。ローカルで頑張っている者としては、一度盛岡を出てもまた戻って来られる選択肢も持てたらと思っています。地元を盛り上げつつ、世界に向けて頑張っている人も応援していきたいですね。



【編集後記】

昨年に引き続き、盛岡で活躍する若き経営者にお話を伺う機会に恵まれました。同年代の活躍を嬉しく思うとともに、他業種の方のお話が自分たちにとって非常に興味深く刺激になりました。淳之介さんの言葉の端々から、特に白聖在校生への温かな励ましを感じました。盛岡、岩手に帰って就職したいと考えている在校生にも読んで頂けたら幸いです。　（平成13年卒　村上怜、三浦自雄）



登山部

３年５組　永沼 美翔

創部初の男女インターハイ出場



今年度の登山部は創部史上初の県高総体男女同時優勝、そして男女共に香川インターハイ出場権を獲得しました。毎日の階段昇降や筆記試験対策の早朝勉強会に加え、入念な現地下見を行い大会に挑みました。

四国の山は標高が高くないものの、連日気温が35度を超え、暑さに慣れるまで数日を要しました。丁寧な現地下見が功を奏し、男子は初出場９位、女子は４位入賞を果たしました。入賞で活動を終えることができた嬉しさや安堵感と、メダル獲得を逃した悔しさが入り混じっていますが、コロナ禍の高校生活の中で最高の思い出になったことは間違いありません。後輩達には、頂を目指しつつも結果「だけ」にこだわらず、日々の当たり前に感謝しながら登山を楽しんでもらいたいと思います。

インターハイ出場にあたり白聖同窓会様から奨励費をいただき、充実した活動ができたことに心から感謝しています。また、壮行会での応援や校長先生の現地激励も心強かったです。ありがとうございました。

弓道部

３年７組　清水 誉大

インターハイに出場して

私は、８月に徳島県で行われた全国高等学校総合体育大会、弓道・男子個人競技に出場しました。大会では入賞こそできませんでしたが、目標としていた決勝進出を果たすことができ、やりきったと満足しています。緊張感漂う中で、一高弓道部らしい、洗練された射・凛とした体配を最後まで貫き通すことができたと思っています。

２年前、コロナの影響で高総体が中止となり、悔しそうに引退していった当時の３年生の皆さんの姿を見て、より一層真剣に部活動に向き合うようになりました。コロナや自身の足の怪我などで思うように活動できず苦しい時もありましたが、諦めずに練習を積み重ねて、インターハイに出場することができました。この大きな舞台で戦えたことは貴重な経験です。

最後に、指導してくださった先生方、ご支援くださった同窓会の皆様、一緒に活動してきた部員のみんな、応援してくださったたくさんの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



バドミントン部

３年６組　長山 紗千

インターハイに参加して



私たちはインターハイ出場を目標に、日々練習に取り組んできました。ノックやパターン練習などのシャトルを打つ練習だけでなく、筋トレやランニングなど体力強化にも努めてきました。県高総体では練習の成果を発揮することができ、個人戦ダブルス２位、シングルス２位になり、インターハイ出場を決めました。インターハイまでは、東北大会や県の強化練習会に参加し、より試合を意識しての充実した練習に取り組めました。

徳島県で行われたインターハイ本番では慣れない環境や雰囲気の中でしたが、練習を生かした自分たちのプレーができました。そして、全国レベルの選手と試合をしたり、間近でトップ選手の技術を見たりとインターハイでしか得ることができない貴重な経験もできました。今までサポートしてくれた先生方や白聖同窓会の皆さま、バドミントン部のメンバーなど多くの方々の支えのおかげと思っています。本当にありがとうございました。

卓球部

３年２組　瀬川 菜月

インターハイに出場して

私は令和４年８月３日から８日にかけて愛媛県で行われた令和４年度全国高等学校総合体育大会卓球競技大会女子シングルスに出場してきました。小学校の頃から目標にしていたインターハイに出場できることは心からうれしかったです。高校に進学し、勉学と卓球の両立を目指すために、それまでよりも練習時間の確保に工夫を要するなか、練習を続けました。仲間に支えられ、インターハイに出場することができました。

本番では１回戦敗退で、勝つことはできませんでしたが、同時に多くのことを学ぶことができました。このインターハイは一人の力では行けませんでした。支えてくれたたくさんの人々への感謝の気持ちでいっぱいです。全国大会を経験したことで、広い視野と度胸を身につけることができました。これから受ける大学入試もいわば全国大会です。インターハイで得た学びを活かせるように頑張りたいと思います。インターハイの応援、ありがとうございました。



囲碁将棋部（囲碁部門）　1年1組　大梶 華子

男女共に全国へ

８月１日から東京・日本棋院で開催された全国高校総合文化祭には佐藤志斗、大梶華子、細川莉緒の３人、８月３日から同じく日本棋院で行われた全国高校囲碁選手権大会には田中太郎、畠山空、佐藤志斗、吉田恵太、大梶華子、細川莉緒、高橋理子の７人で出場しました。５月に行われた県大会で団体戦男女優勝を果たし、30年ぶりに男女で全国大会に進むことができました。結果は、高文祭・個人戦大梶が２勝４敗、佐藤・細川が出場した団体戦は３勝３敗、選手権大会では個人戦大梶が２勝１敗、細川が３敗、男子団体戦２勝１敗、女子団体戦１勝２敗でした。

全国大会のレベルは高く、刺激を受けると共に自分の弱さを思い知らされました。しかし、格上の相手との試合で勝利を掴んだことや、全国の高校生と交流したことなど、貴重な経験をすることができました。もっと強くなってまた来年も同じ舞台に立てるよう、日々の部活動に励んでいきたいと思います。



陸上競技部　3年3組　久保田 美咲

感謝

インターハイ予選敗退。結果は目標を達成することができなかったのですが、悔いなく競技することができました。３年間を振り返ると、怪我をしたことで結果が伸びず、思うような練習ができないという状態から不安でいっぱいでしたが、実際に全国の舞台に立ち、自分の力を出しきることができるまでに成長できました。

しかし、入学時から目標にしていた全国大会６位以上は達成できず、中学時代より良い結果を残すことはできませんでした。応援してくださった方々への申し訳なさ、思うような結果を残せず終わってしまった悔しさはありますが、この経験も含め、盛岡一高陸上部で学んだことを生かし、これから先も努力していきます。



最後に、ご指導くださった藤井先生、及川先生をはじめ多くの先生や切磋琢磨した仲間、遠くから支えてくれた両親、いつも温かく応援してくださった方々。沢山の方の支えがあって３年間陸上競技に打ち込むことができました。心から感謝申し上げます。（徳島県）

囲碁将棋部（将棋部門）　1年6組　及川 理人

「頭脳の甲子園」に参加して

８月３日、暑い真夏の東京で、高校将棋最大規模の大会、全国高総文祭が開かれました。

私が大会会場に入ったとき、まず人の多さに圧倒されました。300人以上の参加者がいて、中学校の時とはまるで雰囲気が違っていて、とても新鮮でした。

そして、開会式が終わり、対局が始まりました。緊張はしていましたが、それ以上にわくわくした気持ちの方が大きく、楽しんで将棋を指せて、初戦を勝利することができました。対局が終わったので周りの勝負を見渡すと、迫力ある眼差しで盤上を見つめる人、負けた悔しさで涙を流す人などがいて、会場が熱気に包まれていることを感じ、この大会が別名「頭脳の甲子園」と呼ばれている理由を改めて理解することができました。私は予選落ちでふがいない結果でしたが、将棋の熱気に触れることができた充実した１日でした。



生物部　3年5組　及川 紗綾

全国高等学校総合文化祭に参加して



生物部は全国総合文化祭自然科学部門に８年連続での出場となりました。今年度はポスター（パネル）発表部門で「市街地における腐肉食性昆虫群集の遷移第２報」、研究発表生物部門で「ゼブラフィッシュのエタノール暴露による行動への影響」という２つのテーマで参加しました。長期間の地道な実験や膨大な量のデータをまとめ、何度も考察や議論を重ねて研究を行いました。その努力の成果として、ポスター（パネル）発表部門で奨励賞（５～８位相当）を受賞することができました。審査員の先生方からは、研究テーマへの着眼点や地道に採集を重ねたデータの充実性を評価していただきました。

今年度は３年ぶりにほぼ通常開催となり、会場で他校の発表を見学したり、互いに意見交換をしたりして、大きな学びを得ることができました。他にも生徒交流会でのチーム対抗のクイズ大会や記念講演会など、とても充実した大会になりました。

放送委員会　3年1組　千葉 南美

全国の風

８月のとうきょう総文は、それまでの大会の多くがオンライン審査となる中で、初めて会場で参加した全国大会でした。

全国の作品の感想を同校の生徒と共有し、他県の生徒と交流する。同じ県の生徒と協力して作品を作り、勇気づけ合って、受賞者が出たら喜びを分かち合う。Web開催では味わえない一体感のある大会でした。放送委員生活の最後に実際に全国の風を感じることができ、本当に良かったです。

また、同行していた２年生たちが発表ごとに反省を書き留めている姿も印象的でした。２年生にとってもこうした機会は少なかったので、特に実りのある大会になったのではないかと思います。ここで吸収したことを生かして、目標に向かってより良い作品を作っていってほしいと思います。



こうした放送委員会の活動は、委員以外の方がいて初めて成り立ちます。最後になりますが、放送委員会の活動に関わってくださった全ての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

書道部　3年3組　中村 しずく

全国高等学校総合文化祭に参加して

私は、８月に東京都で行われた第46回全国高等学校総合文化祭東京大会「とうきょう総文2022」書道部門に参加してきました。

交流会は、東京の古き良き伝統や、その新たな側面を感じられる実りあるものでした。また、県外の高校生との交流は、時勢も手伝い、なかなか出来ることではなかったため、刺激を受けましたし、多くの学びを得ることができました。

講評会では、審査員の方の視点や、大会の傾向等を学ぶことができました。書道に関わる伝統産業の衰退についてのお話も伺い、書道に関わる自分がまず考えるべき問題であり、また伝統産業の衰退等はどの分野でも叫ばれる問題だと思うので、そういった事にも今後は積極的に目を向けていこうと思いました。



最後に、全国大会に参加できたのは、ご指導くださった先生、支えてくれた家族や部員、友達のおかげです。沢山の人に支えられ、全国という場に進むことができました。本当にありがとうございました。今大会で得た知見を周りの人達に伝え、より多くの人に書道の魅力を広めていきたいと思います。

部活動の記録

令和3年12月～令和4年11月の大会結果について

■運動部

弓道部

R3
【岩手県高等学校新人大会】
男子団体
齋藤玲利、佐藤壱英、小成貴紀、長岡勇之介、清水誉大、山本龍之介、小田音合
決勝リーグ（20射）第3位
1回戦　黒沢尻工　9－10　○盛岡一
準決勝　盛岡一　9－12　○福岡工
女子団体
佐々木杏、畠山葵伊、田村紗和、阿部ななみ、舩木陽帆、福島里菜、遠藤みなみ
予選　40射16中　8位タイ

R4
【第74回盛岡市民体育大会弓道競技】
男子個人
山本龍之介　6射皆中　第1位
上路裕星　6射4中　第3位
男子団体
盛岡一B（長岡勇之介、上路裕星、山本龍之介）18射13中　第1位
盛岡一A（齋藤玲利、小成貴紀、清水誉大）18射8中　第3位
女子個人　鈴木茉央　6射皆中　第1位
女子団体
盛岡一F（鈴木茉央、工藤惺良、松浦寧々）18射9中　4位タイ相当
【第74回岩手県高等学校総合体育大会】
男子個人　清水誉大　20射16中　第2位
男子団体　予選　40射16中
準々決勝　20射11中　ベスト16
【第41回全国高等学校弓道選抜大会岩手県予選会】
女子団体　ベスト8
田村紗和、鈴木茉央、古川真愛
女子個人
古川真愛　第1位

剣道部

R4
【第74回岩手県高等学校総合体育大会剣道競技】
男子団体　ベスト8
予選リーグ
盛岡一　3（6）－1（4）宮古
盛岡一　4（8）－1（4）遠野
決勝トーナメント
盛岡一　1（3）－1（2）盛岡四
決勝リーグ
盛岡一　1（2）－3（4）盛岡南
盛岡一　3（6）－2（2）花巻北
盛岡一　1（3）－3（6）盛岡白百合
男子個人　安達孝晟　第3位
小原真　ベスト16
女子個人　阿部倖乃　ベスト8
女子団体　第3位
予選リーグ
盛岡一　5（9）－0（0）久慈
決勝トーナメント
盛岡一　1（3）－1（2）盛岡四
決勝リーグ
盛岡一　1（2）－3（4）盛岡南
盛岡一　3（6）－2（2）花巻北
盛岡一　1（3）－3（6）盛岡白百合
男子個人　安達孝晟　第3位
小原真　ベスト16
女子個人　阿部倖乃　ベスト8
女子個人
古川真愛　第1位

【第74回岩手県高等学校総合体育大会剣道競技】
男子団体　ベスト8
予選リーグ
盛岡一　3（6）－1（4）宮古
盛岡一　4（8）－1（4）遠野
決勝トーナメント
盛岡一　1（3）－1（2）盛岡四
決勝リーグ
盛岡一　1（2）－3（4）盛岡南
盛岡一　3（6）－2（2）花巻北
盛岡一　1（3）－3（6）盛岡白百合
男子個人　安達孝晟　第3位
小原真　ベスト16
女子個人　阿部倖乃　ベスト8
女子団体　第3位
予選リーグ
盛岡一　5（9）－0（0）久慈
決勝トーナメント
盛岡一　1（3）－1（2）盛岡四
決勝リーグ
盛岡一　1（2）－3（4）盛岡南
盛岡一　3（6）－2（2）花巻北
盛岡一　1（3）－3（6）盛岡白百合
男子個人　安達孝晟　第3位
小原真　ベスト16
女子個人　阿部倖乃　ベスト8
女子団体　第3位
予選リーグ
盛岡一　3（6）－1（4）宮古
盛岡一　4（8）－1（4）遠野
決勝トーナメント
盛岡一　1（3）－1（2）盛岡四
決勝リーグ
盛岡一　1（2）－3（4）盛岡南
盛岡一　3（6）－2（2）花巻北
盛岡一　1（3）－3（6）盛岡白百合
男子個人　安達孝晟　第3位
小原真　ベスト16
女子個人　阿部倖乃　ベスト8
【第41回全国高等学校弓道選抜大会岩手県予選会】
女子団体　ベスト8
田村紗和、鈴木茉央、古川真愛
女子個人
古川真愛　第1位

R4
【第74回盛岡市民体育大会弓道競技】
男子個人
山本龍之介　6射皆中　第1位
上路裕星　6射4中　第3位
男子団体
盛岡一B（長岡勇之介、上路裕星、山本龍之介）18射13中　第1位
盛岡一A（齋藤玲利、小成貴紀、清水誉大）18射8中　第3位
女子個人　鈴木茉央　6射皆中　第1位
女子団体
盛岡一F（鈴木茉央、工藤惺良、松浦寧々）18射9中　4位タイ相当
【第74回岩手県高等学校総合体育大会】
男子個人　清水誉大　20射16中　第2位
男子団体　予選　40射16中
準々決勝　20射11中　ベスト16
【第41回全国高等学校弓道選抜大会岩手県予選会】
女子団体　ベスト8
田村紗和、鈴木茉央、古川真愛
女子個人
古川真愛　第1位

卓球部

R3
【第45回東北高等学校選抜卓球大会岩手県予選会（学校対抗戦）】
男子　予選Aリーグ　4位通過
決勝リーグ　総合10位
予選Bリーグ　4位通過
決勝リーグ　総合10位

R4
【第74回高等学校総合体育大会卓球競技】
男子学校対抗　ベスト16
2回戦　3－2　一関工
3回戦　0－2　盛岡三
女子学校対抗
2回戦　0－3　専大北上
女子ダブルス（瀬川・板澤）
2回戦　1－3　花巻北
女子シングルス　瀬川菜月　第3位
2回戦　3－0　水沢
3回戦　3－0　盛岡二
4回戦　3－0　盛岡市立
準々決勝　3－1　一関二
準決勝　0－3　盛岡二
【第76回東北高等学校卓球選手権大会】
女子シングルス　瀬川菜月
ベスト16相当
1回戦　シード
2回戦　3－2　磐城第一（福島）
3回戦　2－3　桜の聖母（福島）
【全国高等学校総合体育大会卓球競技大会兼第91回全国高等学校卓球選手権大会】
女子シングルス　瀬川菜月
1回戦　0－3　敬徳学園（佐賀）
【第68回岩手県高等学校新人卓球大会】
男子学校対抗　2回戦　1－3　一関一
男子ダブルス
澤田颯・小笠原裕楽
2回戦　1－3　大船渡
男子シングルス
小笠原裕楽　2回戦　0－3　花巻農
星野煉斗　1回戦　1－3　水沢商
女子学校対抗　1回戦　1－3　伊保内
女子シングルス
太田結寿花　1回戦　0－3　大船渡
鈴木智絵　1回戦　3－0　水沢
2回戦　0－3　一関二

テニス部

R3
【岩手県ジュニアテニス選手権】
男子U18シングルス
3回戦　1－2　盛岡三
女子個人　吉田真里菜・畑山紗璃
1回戦　前沢
2回戦　福岡
和野絢・柳田幸乃
1回戦　大船渡
女子団体
佐々木杏、畠山葵伊、田村紗和、阿部ななみ、舩木陽帆、福島里菜、遠藤みなみ
予選　40射16中　8位タイ

R4
【第74回盛岡市民体育大会弓道競技】
男子個人
山本龍之介　6射皆中　第1位
上路裕星　6射4中　第3位
男子団体
盛岡一B（長岡勇之介、上路裕星、山本龍之介）18射13中　第1位
盛岡一A（齋藤玲利、小成貴紀、清水誉大）18射8中　第3位
女子個人　鈴木茉央　6射皆中　第1位
女子団体
盛岡一F（鈴木茉央、工藤惺良、松浦寧々）18射9中　4位タイ相当
【第74回岩手県高等学校総合体育大会】
男子個人　清水誉大　20射16中　第2位
男子団体　予選　40射16中
準々決勝　20射11中　ベスト16
【第41回全国高等学校弓道選抜大会岩手県予選会】
女子団体　ベスト8
田村紗和、鈴木茉央、古川真愛
女子個人
古川真愛　第1位

【第68回東北高等学校剣道選手権大会兼第54回東北高等学校女子剣道選手権大会】
女子団体　予選リーグ第2位（1勝1敗）
盛岡一　3（6）－1（1）青森西
盛岡一　0（1）－4（7）山形市立商
男子個人　安達孝晟　2回戦
女子個人　阿部倖乃　1回戦

硬式野球部

R4
【第69回春季東北地区高等学校野球岩手県大会】
1回戦　盛岡一　7－0　高田（7C）
2回戦　盛岡一　4－9　久慈　ベスト16
【第104回全国高等学校野球選手権岩手大会】
1回戦　盛岡一　5－1　福岡
2回戦　盛岡一　13－1　大野・紫波連合（5C）
3回戦　盛岡一　9－2　遠野（8C）
準々決勝　盛岡一　7－0　久慈（7C）
準決勝　盛岡一　0－7　一関学院
【第75回秋季東北地区高等学校野球岩手県大会】
1回戦　盛岡一　7－8　盛岡中央

サッカー部

R4
【第74回岩手県高等学校総合体育大会サッカー競技】
1回戦　盛岡一　1－0　水沢工
2回戦　盛岡一　0－6　盛岡中央
【第101回全国高校サッカー選手権大会岩手県大会】
2回戦　盛岡一　3－1　一関一
3回戦　盛岡一　0－5　盛岡中央
【第57回岩手県高等学校新人サッカー大会】
1回戦　盛岡一　2－1　江南義塾
2回戦　盛岡一　1－2　盛岡市立

柔道部

R4
【第74回岩手県高等学校総合体育大会柔道競技】
男子団体
1回戦　盛岡一　4－0　一関高専
2回戦　盛岡一　1－4　盛岡南
女子団体
2回戦　盛岡一　3－0　花北青雲
準々決勝　盛岡一　2－1　宮古
準決勝　盛岡一　0－2　盛岡南
男子個人　81kg級　三浦大也　第3位
女子個人　52kg級　廣田諒子　第3位
【第72回東北高等学校柔道大会】
男子個人
81kg級
1回戦　三浦大也　×（横四方固め）○　真田知尚（山形　羽黒高校）

【第55回岩手県高等学校1・2年体重別柔道選手権大会】
女子個人　57kg級
中村悠月　第1位
菅野琴未　第2位
【第67回岩手県高等学校新人柔道大会】
男子団体　盛岡一　1－4　専大北上
女子団体　第2位
1回戦　盛岡一　3－0　花巻北
2回戦　盛岡一　2－0　福岡
準決勝　盛岡一　1－0　宮古
決勝　盛岡一　0－3　盛岡南
女子個人
52kg級　佐藤心菜　第3位
57kg級　菅野琴未　第1位
中村悠月　第3位

【第68回東北高等学校剣道選手権大会兼第54回東北高等学校女子剣道選手権大会】
女子団体　予選リーグ第2位（1勝1敗）
盛岡一　3（6）－1（1）青森西
盛岡一　0（1）－4（7）山形市立商
男子個人　安達孝晟　2回戦
女子個人　阿部倖乃　1回戦

硬式野球部

R4
【第69回春季東北地区高等学校野球岩手県大会】
1回戦　盛岡一　7－0　高田（7C）
2回戦　盛岡一　4－9　久慈　ベスト16
【第104回全国高等学校野球選手権岩手大会】
1回戦　盛岡一　5－1　福岡
2回戦　盛岡一　13－1　大野・紫波連合（5C）
3回戦　盛岡一　9－2　遠野（8C）
準々決勝　盛岡一　7－0　久慈（7C）
準決勝　盛岡一　0－7　一関学院
【第75回秋季東北地区高等学校野球岩手県大会】
1回戦　盛岡一　7－8　盛岡中央

サッカー部

R4
【第74回岩手県高等学校総合体育大会サッカー競技】
1回戦　盛岡一　1－0　水沢工
2回戦　盛岡一　0－6　盛岡中央
【第101回全国高校サッカー選手権大会岩手県大会】
2回戦　盛岡一　3－1　一関一
3回戦　盛岡一　0－5　盛岡中央
【第57回岩手県高等学校新人サッカー大会】
1回戦　盛岡一　2－1　江南義塾
2回戦　盛岡一　1－2　盛岡市立

柔道部

R4
【第74回岩手県高等学校総合体育大会柔道競技】
男子団体
1回戦　盛岡一　4－0　一関高専
2回戦　盛岡一　1－4　盛岡南
女子団体
2回戦　盛岡一　3－0　花北青雲
準々決勝　盛岡一　2－1　宮古
準決勝　盛岡一　0－2　盛岡南
男子個人　81kg級　三浦大也　第3位
女子個人　52kg級　廣田諒子　第3位
【第72回東北高等学校柔道大会】
男子個人
81kg級
1回戦　三浦大也　×（横四方固め）○　真田知尚（山形　羽黒高校）

【第55回岩手県高等学校1・2年体重別柔道選手権大会】
女子個人　57kg級
中村悠月　第1位
菅野琴未　第2位
【第67回岩手県高等学校新人柔道大会】
男子団体　盛岡一　1－4　専大北上
女子団体　第2位
1回戦　盛岡一　3－0　花巻北
2回戦　盛岡一　2－0　福岡
準決勝　盛岡一　1－0　宮古
決勝　盛岡一　0－3　盛岡南
女子個人
52kg級　佐藤心菜　第3位
57kg級　菅野琴未　第1位
中村悠月　第3位

【第74回岩手県高等学校総合体育大会登山競技】
男子団体　第1位　98・2点（服部亮輔、白倉歳也、内澤昊太郎、佐々木克志）
女子団体　第1位　99・7点（永沼美翔、吉田穂香、茅平夏奈、菊地真琴）
【第6回東北高等学校登山大会】
男子団体　第2位　98・2点（服部亮輔、白倉歳也、内澤昊太郎、佐々木克志）
女子団体　第1位　98・2点（永沼美翔、多田春菜、茅平夏奈、菊地真琴）

【第74回岩手県高等学校総合体育大会登山競技】
男子団体　第1位　98・2点（服部亮輔、白倉歳也、内澤昊太郎、佐々木克志）
女子団体　第1位　99・7点（永沼美翔、吉田穂香、茅平夏奈、菊地真琴）
【第6回東北高等学校登山大会】
男子団体　第2位　98・2点（服部亮輔、白倉歳也、内澤昊太郎、佐々木克志）
女子団体　第1位　98・2点（永沼美翔、多田春菜、茅平夏奈、菊地真琴）

【第74回岩手県高等学校総合体育大会ソフトテニス競技】
男子個人
池田夕聖・野澤賢人　ベスト32
県インドア大会出場
菅野成世・村上叶多　1回戦
男子団体
1回戦　2－1　花北青雲
2回戦　1－2　水沢
女子個人
1回戦　4－0　一関一
2回戦　0－4　高田
【第74回岩手県高等学校総合体育大会ソフトテニス競技】
男子個人
山本一仁・村上叶多
1回戦　前沢
2回戦　福岡
和野絢・柳田幸乃
1回戦　大船渡
女子団体
1回戦　1－2　盛岡三
男子団体
1回戦　2－1　花北青雲
2回戦　1－2　水沢
女子個人
1回戦　4－1　黒沢尻北
2回戦　0－4　一関学院
男子団体
1回戦　1－2　一関二
女子団体
1回戦　2－1　千厩
2回戦　1－2　前沢

【第68回岩手県高等学校新人大会ソフトテニス競技】
男子個人
池田夕聖・野澤賢人　ベスト32
県インドア大会出場
菅野成世・村上叶多　1回戦
男子団体
1回戦　2－1　花北青雲
2回戦　1－2　水沢
女子個人
1回戦　4－1　黒沢尻北
2回戦　0－4　一関学院
男子団体
1回戦　1－2　一関二
女子団体
1回戦　2－1　千厩
2回戦　1－2　前沢

【第74回岩手県高等学校総合体育大会ソフトテニス競技】
男子個人
山本一仁・村上叶多
1回戦　前沢
2回戦　福岡
和野絢・柳田幸乃
1回戦　大船渡
女子団体
1回戦　1－2　盛岡三
男子団体
1回戦　2－1　花北青雲
2回戦　1－2　水沢
女子個人
1回戦　4－1　黒沢尻北
2回戦　0－4　一関学院
男子団体
1回戦　1－2　一関二
女子団体
1回戦　2－1　千厩
2回戦　1－2　前沢

【第74回岩手県高等学校総合体育大会ソフトテニス競技】
男子個人
山本一仁・村上叶多
1回戦　前沢
2回戦　福岡
和野絢・柳田幸乃
1回戦　大船渡
女子団体
1回戦　1－2　盛岡三
男子団体
1回戦　2－1　花北青雲
2回戦　1－2　水沢
女子個人
1回戦　4－1　黒沢尻北
2回戦　0－4　一関学院
男子団体
1回戦　1－2　一関二
女子団体
1回戦　2－1　千厩
2回戦　1－2　前沢

【第74回岩手県高等学校総合体育大会ソフトテニス競技】
男子個人
山本一仁・村上叶多
1回戦　前沢
2回戦　福岡
和野絢・柳田幸乃
1回戦　大船渡
女子団体
1回戦　1－2　盛岡三
男子団体
1回戦　2－1　花北青雲
2回戦　1－2　水沢
女子個人
1回戦　4－1　黒沢尻北
2回戦　0－4　一関学院
男子団体
1回戦　1－2　一関二
女子団体
1回戦　2－1　千厩
2回戦　1－2　前沢

【第74回岩手県高等学校総合体育大会ソフトテニス競技】
男子個人
山本一仁・村上叶多
1回戦　前沢
2回戦　福岡
和野絢・柳田幸乃
1回戦　大船渡
女子団体
1回戦　1－2　盛岡三
男子団体
1回戦　2－1　花北青雲
2回戦　1－2　水沢
女子個人
1回戦　4－1　黒沢尻北
2回戦　0－4　一関学院
男子団体
1回戦　1－2　一関二
女子団体
1回戦　2－1　千厩
2回戦　1－2　前沢

【第74回岩手県高等学校総合体育大会ソフトテニス競技】
男子個人
山本一仁・村上叶多
1回戦　前沢
2回戦　福岡
和野絢・柳田幸乃
1回戦　大船渡
女子団体
1回戦　1－2　盛岡三
男子団体
1回戦　2－1　花北青雲
2回戦　1－2　水沢
女子個人
1回戦　4－1　黒沢尻北
2回戦　0－4　一関学院
男子団体
1回戦　1－2　一関二
女子団体
1回戦　2－1　千厩
2回戦　1－2　前沢

【第45回全国高等学校柔道選手権大会岩手県大会・富士大学旗争奪高校柔道大会】
男子団体
1回戦　盛岡一　3－2　不来方
2回戦　盛岡一　2－3　岩手
女子団体　ベスト8
盛岡一　1－2　不来方
女子個人　57kg級
菅野琴未　第1位
全国高校柔道選手権大会、東北地区大会出場
中村悠月　第2位
東北地区大会　出場

【第15回岩手県スポーツクライミング競技国体選手選考会】
少年女子　ボルダリング競技
第1位　大湯凜
少年女子　リード競技
第3位　大湯凜
第4位　川村鞠采
第5位　須藤はる美
【令和4年度全国高等学校総合体育大会登山大会　第66回全国高等学校登山大会】
男子団体　第9位　97・9点（服部亮輔、白倉歳也、内澤昊太郎、佐々木克志）
女子団体　第4位　98・9点（永沼美翔、吉田穂香、茅平夏奈、菊地真琴）
【第58回岩手県高等学校新人登山大会】
男子学校対抗の部　第1位　98・7点（白倉歳也、内澤昊太郎、佐々木克志、佐藤悠樹）
女子学校対抗の部　第1位　99・5点（吉田穂香、茅平夏奈、菊地真琴、須藤はる美）
女子チーム対抗の部　第1位　99・1点（川村鞠采、及川眞子、中舘玲来、岡野楓華）
【第12回岩手県高校生スポーツクライミング大会　兼第13回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会岩手県予選会】
男子リードの部
第9位　白倉歳也
男子ビギナーの部
第3位　内澤昊太郎
第4位　佐藤悠樹
第5位　佐々木克志
第6位　松田悠清
第8位　遊坐清平
女子リードの部
第2位　川村鞠采
第4位　須藤はる美
※第13回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会　出場権獲得
第5位　吉田穂香
第6位　茅平夏奈
第7位　菊地真琴
第8位　中舘玲来
第9位　岡野楓華

【第15回岩手県スポーツクライミング競技国体選手選考会】
少年女子　ボルダリング競技
第1位　大湯凜
少年女子　リード競技
第3位　大湯凜
第4位　川村鞠采
第5位　須藤はる美
【令和4年度全国高等学校総合体育大会登山大会　第66回全国高等学校登山大会】
男子団体　第9位　97・9点（服部亮輔、白倉歳也、内澤昊太郎、佐々木克志）
女子団体　第4位　98・9点（永沼美翔、吉田穂香、茅平夏奈、菊地真琴）
【第58回岩手県高等学校新人登山大会】
男子学校対抗の部　第1位　98・7点（白倉歳也、内澤昊太郎、佐々木克志、佐藤悠樹）
女子学校対抗の部　第1位　99・5点（吉田穂香、茅平夏奈、菊地真琴、須藤はる美）
女子チーム対抗の部　第1位　99・1点（川村鞠采、及川眞子、中舘玲来、岡野楓華）
【第12回岩手県高校生スポーツクライミング大会　兼第13回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会岩手県予選会】
男子リードの部
第9位　白倉歳也
男子ビギナーの部
第3位　内澤昊太郎
第4位　佐藤悠樹
第5位　佐々木克志
第6位　松田悠清
第8位　遊坐清平
女子リードの部
第2位　川村鞠采
第4位　須藤はる美
※第13回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会　出場権獲得
第5位　吉田穂香
第6位　茅平夏奈
第7位　菊地真琴
第8位　中舘玲来
第9位　岡野楓華

水泳部

R4
【第60回岩手県高等学校新人水泳競技大会】
男子
200ｍ平泳ぎ　第4位　小笠原助維
100ｍ平泳ぎ　第3位　小笠原助維
200ｍバタフライ　第5位　柾本旭日
100ｍバタフライ　第4位　柾本旭日
4×100ｍメドレーリレー　第6位
（田村悠尚・小笠原助維・柾本旭日・川崎凛）
4×100ｍフリーリレー　第6位
（金田真弥、柾本旭日、川崎凛、小笠原助維）
女子
200ｍ平泳ぎ　第5位　高橋陽久
200ｍ背泳ぎ　第6位　高橋帆乃佳
200ｍ個人メドレー　第3位　高橋陽久
第5位　高橋帆乃佳
【第30回東北高等学校新人水泳競技大会】
男子
200ｍ平泳ぎ　第24位　小笠原助維
100ｍ平泳ぎ　第24位　小笠原助維
100ｍバタフライ　第22位　柾本旭日
女子
200ｍ個人メドレー　第21位　高橋陽久

ソフトテニス部

R4
【第32回岩手県ジュニア選抜ソフトテニス選手権大会　兼ハイスクールジャパンカップ2022予選会】
男子ダブルス　山本一仁・村上叶多
1回戦　2－4　一関一
男子シングルス　山本一仁
1回戦　2－4　久慈工
女子ダブルス　吉田真里菜・畑山紗璃
1回戦　4－0　宮古
2回戦　1－4　水沢
和野絢・柳田幸乃
1回戦　4－3　宮古
2回戦　0－4　高田
女子シングルス　吉田真里菜
1回戦　4－2　北上翔南
2回戦　0－4　大船渡
和野絢
1回戦　4－0　一関一
2回戦　0－4　高田
【第67回全国高等学校軟式野球選手権東東北大会】
※7年ぶり2度目の出場
準決勝　3－5　仙台商（宮城）

軟式野球部

R4
【第67回全国高等学校軟式野球選手権岩手大会】
代表決定戦　9－2　盛岡商（7C）
【第67回全国高等学校軟式野球選手権東東北大会】

バスケットボール部

R3
【第67回岩手県高等学校新人大会】
男子
1回戦　52－69　黒沢尻北
女子　ベスト16
1回戦　55－54　高田
2回戦　49－58　盛岡三

R4
【第74回岩手県高等学校総合体育大会】
男子　ベスト16
2回戦　80－39　大船渡
3回戦　54－50　黒沢尻北
4回戦　56－73　黒沢尻工
女子
2回戦　51－69　福岡・軽米

卓球部

R3
【第45回東北高等学校選抜卓球大会岩手県予選会（学校対抗戦）】
男子　予選Aリーグ　4位通過
決勝リーグ　総合10位
予選Bリーグ　4位通過
決勝リーグ　総合10位

R4
【第74回高等学校総合体育大会卓球競技】
男子学校対抗　ベスト16
2回戦　3－2　一関工
3回戦　0－2　盛岡三
女子学校対抗
2回戦　0－3　専大北上
女子ダブルス（瀬川・板澤）
2回戦　1－3　花巻北
女子シングルス　瀬川菜月　第3位
2回戦　3－0　水沢
3回戦　3－0　盛岡二
4回戦　3－0　盛岡市立
準々決勝　3－1　一関二
準決勝　0－3　盛岡二
【第76回東北高等学校卓球選手権大会】
女子シングルス　瀬川菜月
ベスト16相当
1回戦　シード
2回戦　3－2　磐城第一（福島）
3回戦　2－3　桜の聖母（福島）
【全国高等学校総合体育大会卓球競技大会兼第91回全国高等学校卓球選手権大会】
女子シングルス　瀬川菜月
1回戦　0－3　敬徳学園（佐賀）
【第68回岩手県高等学校新人卓球大会】
男子学校対抗　2回戦　1－3　一関一
男子ダブルス
澤田颯・小笠原裕楽
2回戦　1－3　大船渡
男子シングルス
小笠原裕楽　2回戦　0－3　花巻農
星野煉斗　1回戦　1－3　水沢商
女子学校対抗　1回戦　1－3　伊保内
女子シングルス
太田結寿花　1回戦　0－3　大船渡
鈴木智絵　1回戦　3－0　水沢
2回戦　0－3　一関二

バドミントン部

R3
【第22回岩手県高等学校選抜バドミントン大会】
女子学校対抗　準優勝
1回戦　3－1　専大北上
準決勝　3－1　花北青雲
決勝　1－3　前沢
【第50回全国高等学校選抜バドミントン大会東北地区予選会】
女子学校対抗
1回戦　浪岡（棄権）
2回戦　2－3　秋田北
女子学校対抗　第3位
2回戦　3－0　釜石商工
3回戦　3－1　黒沢尻工
準々決勝　3－0　岩谷堂
準決勝　3－1　花巻北
決勝　0－3　花北青雲
男子ダブルス
古山由登・柏山祐紀
1回戦　0－2　専大北上
高橋諒・佐々木裕
1回戦　0－2　前沢
赤坂祐生・山内隆星
1回戦　0－2　千厩
女子ダブルス
細越耀加・井上あかり
1回戦　0－2　北上翔南
高橋朱里・菅原由唯
1回戦　2－0　釜石
2回戦　0－2　盛岡市立
長山紗千・佐々木碧唯　第2位
2回戦　2－0　花北青雲
3回戦　2－0　前沢
準々決勝　2－0　前沢
準決勝　0－2　花北青雲
男子シングル
高橋諒　1回戦　1－2　前沢
女子シングル
菅原由唯　1回戦　0－2　前沢
高橋朱里　2回戦　2－0　花巻北
3回戦　0－2　前沢
佐々木碧唯　2回戦　2－0　北上翔南
長山紗千　第2位
2回戦　2－0　雫石
3回戦　2－0　前沢
準々決勝　2－0　花巻北
準決勝　2－0　前沢
決勝　0－2　花北青雲
【第51回東北高等学校バドミントン選手権大会】
女子ダブルス
長山紗千・佐々木碧唯　1回戦
0－2　聖ウルスラ学院英智（宮城）
女子シングルス
長山紗千　1回戦
1－2　山形城北（山形）
【第67回岩手県種目別バドミントン選手権大会】
男子ダブルス　岩崎啓人・菊池海成
1回戦　2－0　大船渡
2回戦　0－2　前沢

【第43回岩手県高等学校選抜バスケットボール大会】
男子　1回戦　37－83　一関工

バドミントン部

R3
【第22回岩手県高等学校選抜バドミントン大会】
女子学校対抗　準優勝
1回戦　3－1　専大北上
準決勝　3－1　花北青雲
決勝　1－3　前沢
【第50回全国高等学校選抜バドミントン大会東北地区予選会】
女子学校対抗
1回戦　浪岡（棄権）
2回戦　2－3　秋田北
女子学校対抗　第3位
2回戦　3－0　釜石商工
3回戦　3－1　黒沢尻工
準々決勝　3－0　岩谷堂
準決勝　3－1　花巻北
決勝　0－3　花北青雲
男子ダブルス
古山由登・柏山祐紀
1回戦　0－2　専大北上
高橋諒・佐々木裕
1回戦　0－2　前沢
赤坂祐生・山内隆星
1回戦　0－2　千厩
女子ダブルス
細越耀加・井上あかり
1回戦　0－2　北上翔南
高橋朱里・菅原由唯
1回戦　2－0　釜石
2回戦　0－2　盛岡市立
長山紗千・佐々木碧唯　第2位
2回戦　2－0　花北青雲
3回戦　2－0　前沢
準々決勝　2－0　前沢
準決勝　0－2　花北青雲
男子シングル
高橋諒　1回戦　1－2　前沢
女子シングル
菅原由唯　1回戦　0－2　前沢
高橋朱里　2回戦　2－0　花巻北
3回戦　0－2　前沢
佐々木碧唯　2回戦　2－0　北上翔南
長山紗千　第2位
2回戦　2－0　雫石
3回戦　2－0　前沢
準々決勝　2－0　花巻北
準決勝　2－0　前沢
決勝　0－2　花北青雲
【第51回東北高等学校バドミントン選手権大会】
女子ダブルス
長山紗千・佐々木碧唯　1回戦
0－2　聖ウルスラ学院英智（宮城）
女子シングルス
長山紗千　1回戦
1－2　山形城北（山形）
【第67回岩手県種目別バドミントン選手権大会】
男子ダブルス　岩崎啓人・菊池海成
1回戦　2－0　大船渡
2回戦　0－2　前沢

部活動の記録

令和3年12月～令和4年11月の大会結果について

（11面から続く）

赤坂祐生・山内隆星
2回戦 0-2 前沢
女子ダブルス 佐々木碧唯・井上あかり
2回戦 0-2 花北青雲
男子シングルス
千葉陽斗 1回戦 1-2 一関二
赤坂祐生 2回戦 0-2 水沢農
女子シングルス
井上あかり 1回戦 2-0 久慈東
2回戦 0-2 盛岡市立
佐々木碧唯 2回戦 2-0 盛岡二
3回戦 2-1 花巻北
4回戦 0-2 城西中

【令和4年度全国高等学校総合体育大会バドミントン競技大会 高松宮記念杯第73回全国高等学校バドミントン選手権大会】
女子ダブルス 長山紗千・佐々木碧唯
1回戦 0-2 共愛学園（群馬）
女子個人対抗シングルス 長山紗千
1回戦 0-2 甲斐清和（山梨）

【第41回全日本ジュニアバドミントン選手権大会ジュニアの部岩手県代表選考会】
男子ダブルス1次トーナメント
千葉陽斗・菊池海成
1回戦 0-2 専大北上
赤坂祐生・山内隆星
2回戦 1-2 西和賀
女子ダブルス2次トーナメント
佐々木碧唯・井上あかり
1回戦 0-2 盛岡市立
男子シングルス1次トーナメント
宇佐美俊 2回戦 0-2 花泉中
女子シングルス1次トーナメント
井上あかり 1回戦 2-1 下小路中
2回戦 0-2 久慈
佐々木碧唯 2回戦 2-0 岩手女子
3回戦 2-1 盛岡市立
4回戦 2-0 一関二
5回戦 2-0 大原中
1次通過
女子シングルス2次トーナメント
佐々木碧唯 1回戦 2-1 矢巾中
2回戦 0-2 前沢

【第62回岩手県高等学校新人バドミントン大会】
男子団体 2回戦 2-3 専大北上
女子団体 2回戦 3-0 遠野
3回戦 2-3 北上翔南
男子ダブルス 赤坂祐生・山内隆星
2回戦 0-2 花北青雲
女子ダブルス 佐々木碧唯・井上あかり
1回戦 1-2 水沢商
男子シングルス 山内隆星
1回戦 1-2 一関高専
女子シングルス 佐々木碧唯
2回戦 2-0 水沢
3回戦 0-2 花北青雲

バレーボール部

R3

【第69回岩手県高等学校新人バレーボール競技】
女子 1回戦 0-2 水沢一

【第74回岩手県高等学校総合体育大会バレーボール競技】
男子 ベスト16
1回戦 2-1 黒沢尻北
2回戦 0-2 水沢工
女子
1回戦 0-2 千厩

【第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会岩手県予選会（春高予選）】
男子 ベスト16
1回戦 2-0 一戸（不戦勝）
2回戦 0-2 盛岡南

ハンドボール部

R3

【第45回全国高等学校ハンドボール選抜大会岩手県予選会】
予選トーナメント
盛岡一 51-29 盛岡中央
決勝リーグ 第3位（得失点差）
盛岡一 28-24 花巻北
盛岡一 21-32 不来方
盛岡一 29-21 盛岡南
優秀選手 吉田泰河
優秀選手賞 佐々木友貴
岩手県選抜選手 吉田泰河

【第74回日本選手権東北ステージ予選会兼第65回岩手県総合ハンドボール選手権大会】
2回戦 19-24 白亜クラブ

【第15回岩手県高等学校秋季ハンドボール大会】
第3位
準々決勝 27-22 盛岡中央
準決勝 20-24 不来方
第3シード決定戦 24-29 花巻北（延長戦）

【第66回岩手県高等学校新人ハンドボール大会】
第3位
1回戦 54-23 久慈・スコーレ・紫波総合連合
2回戦 38-16 盛岡商
準決勝 22-28 不来方
第3シード決定戦 30-24 盛岡南
優秀選手 岸晴太

ラグビー部

R4

【第9回全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会岩手県予選会内陸北地区予選】 準優勝
2回戦 29-5 不来方
決勝戦 5-24 盛岡工

【岩手県高等学校総合体育大会ラグビーフットボール競技】 ベスト4
Aブロック
1回戦 42-28 宮古合同（宮古・宮古商工）
準決勝 0-108 黒沢尻北
3位決定戦 0-70 盛岡工

【第102回全国高等学校ラグビーフットボール大会岩手県大会】 第3位
準々決勝 10-0 一関工
準決勝 3-71 黒沢尻北

【令和4年度岩手県高等学校新人ラグビーフットボール大会】
Aブロック 第6位
1回戦 7-24 宮古・宮古商工
敗者戦 5-31 不来方

陸上競技部

R4

【第74回岩手県高等学校総合体育大会陸上競技】
男子（フィールドの部 第8位）
800m 第3位 錦戸昂雅
三段跳 第2位 丹野正知
砲丸投 第3位 村守壮太
円盤投 第8位 村守壮太
女子（総合 フィールドの部 第3位）
第6位 住吉彩季
100mH 第4位 宮野涼叶
走幅跳 第7位 住吉彩季
三段跳 第1位 多田愛佳
第4位 宮野涼叶
砲丸投 第1位 久保田美咲
七種競技 第8位 佐藤瑚々花

【第77回東北高等学校陸上競技大会】
男子
三段跳 第11位 丹野正知
砲丸投 第11位 村守壮太
女子
走幅跳 第18位 宮野涼叶
三段跳 第6位 多田愛佳
砲丸投 第13位 宮野涼叶
第5位 久保田美咲

【2022岩手県陸上競技選手権大会兼第77回国民体育大会選手選考会兼第49回東北総合体育大会選手選考会】
男子
三段跳 第5位 丹野正知
女子
4×100mR 第6位 佐藤瑚々花、宮野涼叶、住吉彩季、佐藤唯
走幅跳 第6位 宮野涼叶
三段跳 第5位 宮野涼叶
砲丸投 第2位 久保田美咲

【2022 第74回岩手県民体育大会陸上競技大会 兼第77回国民体育大会選手選考会兼第16回U18陸上競技大会対象競技会】
男子2部
4×100mR 第4位 川崎正樹、平子新、佐藤葵、丹野正知
4×400mR 第3位（大会新記録）
平子新、川崎正樹、佐藤葵、平野蒼士
三段跳 第1位 丹野正知
砲丸投 第2位 村守壮太
円盤投 第8位 村守壮太
男子3部
走幅跳 第3位 丹野正知
女子2部
100mH 第4位 佐藤瑚々花
300mH 第5位 住吉彩季
走幅跳 第4位 宮野涼叶
三段跳 第7位 住吉彩季
砲丸投 第1位（大会新記録）
久保田美咲

【令和4年度 全国高等学校総合体育大会陸上競技大会 秩父宮賜杯第75回全国高等学校陸上競技対校選手権大会】
女子
砲丸投 予選1組 第20位 久保田美咲

【第73回岩手県高等学校新人陸上競技大会】
男子 総合第8位 フィールド第3位
400m 第6位 平野蒼士
4×400mR 第4位 川崎正樹、佐藤葵、平子新、平野蒼士
走幅跳 第2位 丹野正知
三段跳 第1位 丹野正知
砲丸投 第2位 村守壮太
円盤投 第8位 村守壮太
男子3部
走幅跳 第3位 丹野正知
女子2部
100mH 第4位 佐藤瑚々花
300mH 第5位 住吉彩季
走幅跳 第4位 宮野涼叶
三段跳 第7位 住吉彩季
砲丸投 第1位（大会新記録）
久保田美咲

【2022岩手県秋季陸上競技大会】
男子
400m 第6位 平野蒼士
4×100mR 第5位 平野蒼士、馬場凛星、佐藤葵、丹野正知
走幅跳 第2位 丹野正知
三段跳 第2位 丹野正知
砲丸投 第1位 村守壮太
円盤投 第2位 村守壮太
女子
100mH 第6位 佐藤瑚々花
走幅跳 第3位 宮野涼叶
三段跳 第2位 宮野涼叶
第6位 住吉彩季

■文化部

囲碁将棋部

R3

【第22回東北地区高等学校将棋新人大会】
及川瑞希 第4位（3勝1敗）

【第30回全国高等学校文化連盟将棋新人大会】
決勝トーナメント
及川瑞希 1回戦 対 三重（三重）○
2回戦 対 広島修道大学ひろしま協創（広島）×

R4

【第44回岩手県高等学校将棋大会】
男子個人戦
A級 第1位 及川理人
第2位 佐々木一真
第4位 古瀬琢也
ベスト8 田中太郎、千葉紘也、田渕慎
2回戦 西舘碧埼、蔵本脩
1回戦 内田浩太郎
B級 3勝1敗 畠山空
2勝2敗 佐藤志斗、吉田恵太、藤森久遠、齊藤至道
女子個人戦
A級 第1位 及川瑞希
第3位 早川まなほ
第4位 佐々木杏菜
第5位 遠山美穂
B級 第2位 細川莉緒
第5位 大梶華子
第12位 高橋理子
男子団体戦
A級 第3位 盛岡一A1（古瀬、千葉、田渕）
第4位 盛岡一A2（蔵本、内田、田中）
B級 第4位 盛岡一B2（西舘、畠山、藤森）
第10位 盛岡一B1（佐藤、齊藤、吉田）
女子団体戦
第3位 盛岡一1（早川、遠山、佐々木）
第4位 盛岡一2（細川、大梶、高橋）

【第46回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権岩手県大会】
男子個人戦
A級 第3位 佐藤志斗
第4位 畠山空
2回戦 田中太郎、吉田恵太、藤森久遠
B級 3勝1敗 千葉紘也
2勝2敗 古瀬琢也
C級 2勝2敗 蔵本脩
2勝2敗 西舘碧埼
E1級 第1位 及川理人
E2級 第1位 佐々木一真
女子個人戦
A級 第1位 大梶華子
第2位 細川莉緒
2回戦 及川瑞希
B級 3勝1敗 高橋理子
2勝2敗 古瀬琢也
C級 2勝2敗 蔵本脩
2勝2敗 西舘碧埼
1勝3敗 遠山美穂
男子団体戦 A級
盛岡一A1（畠山・佐藤・田中）
第1位
盛岡一A2（藤森・吉田・千葉）
第2位
女子団体戦
盛岡一（大梶・細川・高橋）第1位
団体戦B1リーグ
盛岡一B1（古瀬・及川瑞）
3勝1敗
盛岡一B2（西舘・及川理・佐々木）
2勝2敗

【令和4年度岩手県高等学校セミナーサポート事業「岩手県高校生囲碁講習会兼高校級別囲碁大会」】
A級 佐藤志斗 1勝2敗
畠山空 3敗
B級 吉田恵太 3勝 第1位
田中太郎 2勝1敗
藤森久遠、大梶華子、細川莉緒
1勝2敗
C級 高橋理子、西舘碧埼 1勝2敗
D級 及川理人、佐々木一真 3勝1敗
F級 佐々木杏菜、齊藤至道 2勝2敗

【第35回全国高等学校将棋竜王戦岩手県予選 第21回岩手県高等学校文化連盟将棋竜王戦 第32回岩手県高等学校級別将棋大会 兼講習会（セミナーサポート事業）】
A級（トーナメント戦）ベスト8
千葉紘也、佐々木一真、田渕慎、及川理人
2回戦 西舘碧埼
1回戦 畠山空、蔵本脩
B級（スイス式トーナメント戦）
佐藤志斗 5勝0敗 第1位
藤森久遠 3勝2敗 第11位
吉田恵太 3勝2敗 第14位
齊藤至道 2勝3敗 第27位
C級（スイス式トーナメント戦）
佐々木杏菜 4勝1敗 第9位
細川莉緒 3勝2敗 第18位
大梶華子 3勝2敗 第20位
高橋理子 2勝3敗 第27位
早川まなほ 2勝3敗 第39位

【第46回全国高等学校総合文化祭将棋部門 第58回全国高等学校将棋選手権大会】
男子個人戦
及川理人、佐々木一真 2勝2敗
女子個人戦
及川瑞希 ベスト16
決勝トーナメント
1回戦 及川 ○-× 大向（宮城）
2回戦 及川 ×-○ 砂原（東京）

【第46回全国高等学校総合文化祭囲碁部門】
女子個人戦
大梶華子 2勝4敗（46人中34位）
県対抗団体戦
渡邊和貴（盛岡中央）、佐藤志斗、細川莉緒 3勝3敗（48チーム中26位）

【第46回文部科学大臣杯全国高等学校囲碁選手権大会】
男子団体戦
畠山空、佐藤志斗、田中太郎、吉田恵太 1次リーグ 2勝1敗
女子団体戦
大梶華子、細川莉緒、高橋理子 1次リーグ 1勝2敗
女子個人戦
大梶華子 1次リーグ 2勝1敗
細川莉緒 1次リーグ 3敗

【第45回岩手県高等学校総合文化祭囲碁部門 第31回岩手県高等学校文化連盟囲碁新人大会】
男子個人戦
A級（トーナメント戦）
畠山空 第2位
佐藤志斗 1回戦
B級
千葉紘也 4勝 第1位
蔵本脩 4敗
西舘碧埼 1勝3敗
C級
佐々木一真 4勝 第1位
及川理人 2勝2敗
D級
齊藤至道 1勝3敗
E級
田渕慎 2勝2敗
女子個人戦（トーナメント戦）
大梶華子 2回戦
高橋理子 2回戦
佐々木杏菜 1回戦 敗者戦2勝
早川まなほ 1回戦 敗者戦1勝
池田美桜 1回戦 敗者戦1勝
男子団体A（トーナメント戦）
盛岡一A1（畠山・佐藤・藤森）
第1位
盛岡一A2（吉田・千葉・蔵本）
第3位
女子団体A（リーグ戦）
盛岡一F1（大梶・細川・高橋）
第1位
盛岡一F2（佐々木杏・早川・池田）
第3位
団体B
盛岡一B1（西舘・及川）2勝2敗
盛岡一B2（佐々木一・齊藤）3勝1敗
男子個人戦
A級（トーナメント）
第3位 佐々木一真
第4位 千葉紘也
ベスト8 田渕慎
2回戦 蔵本脩
1回戦 畠山空、佐藤志斗、西舘碧埼、藤森久遠、及川理人

英語部

R3

【令和3年度PDA即興型英語ディベート岩手交流大会 Online】
第3位 盛岡一Cチーム（熊谷心琴、村上陽海、山形想、岩間陽菜）
第4位 盛岡一Bチーム（宮崎理奈子、関根佳子、井上彩花、宮川歩夢）

【第16回全国高校生英語ディベート大会 online】
予選ラウンド 第18位（64校中）
金田成加、小成雪月、阿部愛菜、島田澪、澤崎ゆずか、千葉叶夏子
優秀ディベーター賞 千葉叶夏子
全参加ディベーター350名超から5名選出
Make Friends 特別賞（フェアプレー賞）
学校紹介動画 Cool Video 賞

【第7回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会＊オンライン開催】
予選リーグ 2勝2敗 第48位（84校中）
（塩井琴音、田端天翔、細越瀬奈）

【第10回岩手県 Kenji Cup 高校生英語ディベート大会 Online】
準優勝 盛岡一A
（山形想、熊谷心琴、沼田愛梨、南川朱里、相馬仁衣梨、井筒彩花）
第3位 盛岡一B
（村上陽海、外舘俊太朗、宮崎理奈子、宮川歩夢、関根佳子、井上彩花）

B級（スイス式トーナメント、5回戦）
吉田恵太 第6位（4勝1敗）
齊藤至道 第7位（3勝2敗）
女子個人戦
細川莉緒 第1位
東北、全国大会出場権獲得
佐々木杏菜 第2位
東北、全国大会出場権獲得
早川まなほ 第3位
池田美桜、大梶華子、高橋理子
予選リーグ敗退
男子団体戦
A級（リーグ戦）
盛岡一A1（及川、田渕、佐々木）
4勝0敗 第1位
盛岡一A2（千葉、畠山、蔵本）
2勝2敗 第3位
盛岡一A3（佐藤、吉田、藤森）
0勝4敗 第5位
B級（スイス式トーナメント、5回戦）
盛岡一（西舘、齊藤）
3勝2敗 第9位
女子（リーグ戦）
盛岡一1（早川、佐々木、高橋）
3勝0敗 第1位
盛岡一A2（千葉、畠山、蔵本）
2勝2敗 第3位
盛岡一A3（佐藤、吉田、藤森）
2勝1敗 第2位

演劇部

R4

【岩手県高文連演劇専門部　県北・北盛岡地区発表会】
盛岡一「フリーダム!!!」
優良賞・演技優秀賞

【第45回岩手県高等学校総合文化祭演劇部門発表会】
生徒講評部門
佐々木ゆま　優秀生徒講評委員
及川明香里　優秀生徒講評委員

音楽部

R3

【第31回岩手県合唱小アンサンブルコンテスト】
銀賞

R4

【第74回全日本合唱コンクール東北支部大会】
金賞（第5位）

軽音楽部

【第45回岩手県高等学校総合文化祭　第22回軽音楽発表会】
優良賞　バンド名：Paleolithic
曲：栞（クリープハイプ）
畠山譲、田中洸成、神田小百合、
佐々木惺生、遠藤亜咲美
優良賞　バンド名：三重螺旋構造
曲：踊り子（Vaundy）
佐々木麻佑子、山田快、鎌田舞花

写真部

【第45回岩手県高等学校総合文化祭写真部門、第41回岩手県高等学校写真展】
入選　川村奈菜子「落葉（らくよう）」

書道部

R3

【第71回全日本学生書道展】
中国大使館賞　横山和沙
学会優秀賞　中村しずく、小山倫佳
学会奨励賞　小林優香、竹田真鈴、
岡田卓士
秀作賞　小原結菜、三田穂乃佳、
吉田彩乃、馬場悠歌

R4

【第20回岩手県高等学校書道作品コンクール】
奨励賞　馬場悠歌

【第17回岩手日報高校書展】
優秀賞　馬場悠歌
秀逸賞　小林優香
入選　中村しずく、竹田真鈴
佳作　小原結菜、三田穂乃佳、
吉田彩乃、岡田卓士、小山倫佳、
横山和沙、西川さくら、
森田結子、太田温菜、菊池紬月

【第23回高校生国際美術展】
佳作　中村しずく、吉田彩乃、
小山倫佳、馬場悠歌

【第45回ふれあい書道展】
条幅の部
熊野町商工会長賞　岡田卓士
筆都大賞　小林優香、小原結菜、
竹田真鈴、横山和沙、
菊池紬月
特選　中村しずく、小山倫佳、
馬場悠歌、西川さくら、
森田結子、太田温菜、菊池紬月
奨励賞　西川さくら、太田結子、
太田温菜

【第46回全国高等学校書道展】
出場　中村しずく

【第42回全国公募千字文大会】
条幅・漢字部門
特選賞候補　馬場悠歌
特選　横山和沙
秀作賞　岡田卓士、吉田彩乃、
小山倫佳
条幅・新和様部門
秀作賞　西川さくら、太田温菜、
菊池紬月
佳作　森田結子
半紙・漢字部門
特選　岡田卓士、小山倫佳、
横山和沙、馬場悠歌、
森田結子
優秀賞　吉田彩乃、菊池紬月
秀作賞　太田温菜
佳作　西川さくら

【第44回岩手県高等学校総合文化祭書道部門】
全紙の部　漢字・仮名部門
優秀賞　中村しずく
奨励賞　小林優香、小原結菜、
竹田真鈴、横山和沙
入選　三田穂乃佳、吉田彩乃、
岡田卓士、馬場悠歌、
西川さくら、森田結子、
菊池紬月

吹奏楽部

R3

【令和3年度岩手県アンサンブルコンテスト】
フルート4重奏
金賞　東北大会出場（千葉璃々愛、
大久保佳奏、岩渕莉奈、長澤優夏里）
サクソフォン4重奏
金賞　東北大会出場（大畑花南、
葛巻葵、菅原沙恵、鈴木和子）
打楽器4重奏
金賞（山下達也、竹林唯、小澤満月、
谷地舘文佳）

【第30回全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト東北大会】
岩渕莉奈（フルート）銅賞
小澤満月（スネアドラム）金賞

【第49回東北アンサンブルコンテスト】
フルート4重奏　銅賞（千葉璃々愛、
大久保佳奏、岩渕莉奈、長澤優夏里）
サクソフォン4重奏　銅賞（大畑花南、
葛巻葵、菅原沙恵、鈴木和子）

R4

【第60回岩手県吹奏楽コンクール】
高等学校の部　銀賞

生物部

R3

【第68回岩手県高等学校理科研究発表会及び第44回岩手県高等学校総合文化祭自然科学部門研究発表会】
研究発表部門
「市街地における腐肉食性昆虫群集の遷移　第2報」
井上美咲、及川紗綾、田村桃子
優秀賞　※全国高総文祭推薦
「ゼブラフィッシュのエタノール暴露による行動への影響」
高橋大和、藤森久遠、橋本由生
ポスター（パネル）発表部門
最優秀賞　※全国高総文祭推薦
「市街地における腐肉食性昆虫群集の遷移　第2報」
井上美咲、及川紗綾、田村桃子

R4

【第46回全国高等学校総合文化祭自然科学部門】
ポスター（パネル）発表部門
奨励賞（4～8位相当／42校）
「市街地における腐肉食性昆虫群集の遷移　第2報」
及川紗綾、田村桃子、井上美咲
研究発表生物部門
「ゼブラフィッシュのエタノール暴露による行動への影響」
高橋大和、橋本由生、藤森久遠、

【岩手県高等学校文化連盟表彰】
岩手県高等学校文化連盟　連盟賞受賞
（「第46回全国高等学校総合文化祭東京大会自然科学部門ポスター発表部門奨励賞」の実績に対して）

天文部

R3

【第68回岩手県高等学校理科研究発表会及び第44回岩手県高等学校総合文化祭自然科学部門研究発表会】
優秀賞
「盛岡市における光害調査」
大菅優貴、柏山祐紀、姫野敦央、
日脇頌太、菅野知里、菅原和夏、
後藤寛弥、吉井悠人

美術部

R4

【第45回岩手県高等学校総合文化祭美術工芸展】
絵画部門
入選　楠山響珂、伊藤充優、田鎖奏羽、
小田英虎、三谷朋加、
佐々木杏菜、三浦ひかり
デザイン部門
入選　中村琴、松本侑也、城戸杏奈、
田頭陽向
立体部門
入選　鷲見達也（2作品）

物理無線部

R3

【第68回岩手県高等学校理科研究発表会及び第44回岩手県高等学校総合文化祭自然科学部門研究発表会】
奨励賞
「ローレンツ力によるエネルギー変換過程の再現」
内田浩太郎、石ヶ森尚樹、泉直樹、
清水誉大、山下達也

【第51回 6m AND DOWN 電信電話部門　マルチオペジュニア種目】
東北地方　第1位
立花空知、松田健汰、上山和真、
宮本真嘉、黒澤昂希、佐々木大輝

R4

【第28回 Supercomputing Contest 2022 本選】
チーム名：MOSA（玉田歩夢、古瀬琢也、
佐々木大樹）20チーム中17位
チーム名：HATOSHO（似内冠太、髙橋玲、
佐藤志斗）20チーム中6位

【第20回全国高等学校パソコンコンクール　パソコン甲子2022 モバイル部門】
チーム名：白堊白文読み（内田浩太郎、
髙橋玲、田頭日向）本選出場

【第20回全国高等学校パソコンコンクール　パソコン甲子園2022プログラミング部門】
似内冠太・田口椋琥（32／533チーム）
本選出場

R4

【第64回 ALL JA コンテスト　電信電話部門マルチオペジュニア種目】
全国第2位
立花空知、松田健汰、宮本真嘉、
古瀬琢也、上山和真、内田浩太郎、
黒澤昂希、佐々木大輝

文学研究部

R3

【第36回全国高等学校文芸コンクール】
詩部門
入選　佐々木麻佑子
「グッドモーニング、睡蓮」

【四国大学第2回富士正晴全国高校生文芸賞】
優秀賞　長谷川千成「綿」

R4

【第25回俳句甲子園　地方大会】
4チームリーグ戦
盛岡一　1勝2敗
（大崎美優、伊藤蓮人、佐々木麻佑子、
野場希海、古舘莉子）

【第17回全国高校生短歌大会（短歌甲子園2022）】
団体戦　準優勝
大崎美優、伊藤蓮人、野場希海、
佐々木麻佑子
個人戦
伊藤蓮人　最優秀賞

【第45回岩手県高等学校総合文化祭　文芸部門　岩手県高校生文芸コンクール】
戯曲部門
最優秀賞　佐々木麻佑子
詩部門
優良賞　佐々木麻佑子
※第24回全国高文連北海道・東北大会
秋田大会　県代表推薦
俳句部門
優良賞　大崎美優
文芸部誌部門
優良賞『邂逅』51号
読書体験記コンクール
優良賞　田鎖奏羽
※全国コンクール進出

放送委員会

R3

【令和3年度高校生交通安全テレビCMコンテスト】
準グランプリ　『繋ぐ』
監督　及川桜
特別賞　『Area Less Than 150°』
監督　築場和葉
優秀賞　『事故防ごっとチャリGOD』
監督　工藤颯太

【第25回東北高等学校放送コンテスト】
テレビキャンペーン部門
優秀賞『innocence』
監督　築場和葉

R4

【第45回岩手県高等学校総合文化祭放送部門大会　兼第69回NHK杯全国高校放送コンテスト岩手県大会】
アナウンス部門
入選　藤原詩、小林優香
朗読部門
最優秀賞　千葉南美　全国大会出場
入選　元村心
ラジオドキュメント部門
最優秀賞『お腹の音、なくし隊！』
監督　及川桜　全国大会出場
テレビドキュメント部門
優秀賞『天まで届け！天文歌』
監督　小林優香　全国大会出場
創作ラジオドラマ部門
最優秀賞『カワラナイモノ、カワルモノ』
監督　佐藤瞳　全国大会出場
優秀賞『Reaper of Weekend』
監督　千葉希
創作テレビドラマ部門
入選『社色区探偵の事件簿』
監督　築場和葉

【第69回NHK杯全国高校放送コンテスト】
テレビドキュメント部門
制作奨励（21～40位相当）
『天まで届け！天文歌』

【第46回全国高等学校総合文化祭東京大会放送部門】
アナウンス部門　小林優香
『舟っこ流し』
朗読部門　千葉南美
『注文の多い料理店（宮沢賢治）』
オーディオメッセージ部門　及川桜
『熱き魂を涼音に乗せて』

【第45回岩手県高等学校総合文化祭放送部門大会　兼第40回岩手県高等学校放送新人大会】
アナウンス部門
優秀賞　藤原詩
全国大会・東北大会出場
優良賞　島守心音　東北大会出場
入選　藤岡慧成　東北大会出場
朗読部門
佐藤瞳　東北大会出場
優良賞　楠山響珂　東北大会出場
オーディオメッセージ部門
最優秀賞『ずっと食卓に寄りしょうゆ』
監督　藤原詩　全国大会出場
ビデオメッセージ部門
優良賞『伝統の居場所』
監督　島守心音
ラジオキャンペーン部門
最優秀賞『タングステン』
監督　佐藤瞳　東北大会出場
優秀賞『Wishes』
監督　佐藤瞳　東北大会出場
テレビキャンペーン部門
優秀賞『withdrawn』
監督　楠山響珂　東北大会出場

【高校生交通安全テレビCMコンテスト】
グランプリ
一般部門
「止まって！」
監督　楠山響珂
特別賞
高齢者部門
「ブレーキが、未来のアクセルに」
監督　佐藤瞳
自転車部門
「ヘルメットでケガへるメット！」
監督　藤岡慧成

その他

【令和4年度「科学の甲子園」岩手県大会】
総合第1位
（堀間涼太、今松美緒、田頭陽向、
櫻田尚哉、佐々木響、藤澤響大、
似内冠太、櫻田うた）
筆記競技：第1位
実技①総合実技：第4位
実技②物理分野：第1位

令和４年度　大学合格者数一覧

国立大学

大学名	現役	過卒
北海道大	2	2
小樽商科大	1	
室蘭工業大		1
弘前大	8	
岩手大	27	3
東北大	38	16
宮城教育大	5	
秋田大	10	3
山形大		1
福島大	2	
茨城大	3	
筑波大	8	1
宇都宮大	1	
群馬大		1
埼玉大	6	1
千葉大	8	
お茶の水女子大		1
電気通信大	1	1
東京大	4	4
東京外国語大	1	1
東京学芸大	6	3
東京工業大	3	
東京農工大	2	1
一橋大	4	
横浜国立大	5	3
新潟大	4	1
静岡大	1	1
京都大	1	1
神戸大	1	
大阪大		1
広島大	2	
合計	154	47
高崎経済大	3	1
前橋工科大		1
東京都立大	1	
長岡造形大	1	
都留文科大	2	1
長野大	1	
奈良県立医科大		1
合計	11	6

公立大学

大学名	現役	過卒
岩手県立大	1	
秋田県立大	1	
国際教養大	1	1
福島県立医大		1

私立大学

大学名	現役	過卒
東北学院大	17	5
青山学院大	7	4
学習院大	4	3
慶應義塾大	6	2
工学院大	3	11
駒澤大	4	5
芝浦工業大	9	26
上智大	3	
中央大	16	14
津田塾大	2	4
東海大	2	7
東京女子大	10	3
東京理科大	13	19
東洋大	17	6
日本大	10	5
日本女子大	8	1
法政大	23	17
明治大	23	18
明治学院大	8	9
立教大	17	7
早稲田大	8	3
関東学院大	1	9
同志社大	1	2
立命館大	6	8
その他	90	54
合計	308	242

医学部医学科

大学名	現役	過卒
弘前大	1	
東北大	2	1
秋田大	9	3
福島県立医大		1
大阪大学		1
奈良県立医大		1
岩手医科大	7	6
自治医科大	1	1
獨協医科大	1	
防衛医科大	1	1
東北医科薬大		2
東海大	1	
順天堂大		1
北里大	1	
昭和大		1
東京医科大		1
帝京大学		1
聖マリアンナ医科大	1	
国際医療福祉大		3
合計	25	24

支部だより

♪深山には　あられふるらし～♪

深山会会長　佐々木郁二（昭和41年卒）



盛岡一高音楽部には全員が歌える合唱曲「深山には」があります。昭和29年、当時のNHK全国唱歌ラジオコンクール岩手県大会の自由曲で「深山には」を歌い、曲にちなんだ「深山会男声合唱団」が誕生、卒業生の組織を「深山会」（会長尾形利夫さん、昭和29年卒）として昭和32年に発足しました。発足以前の諸先輩にも加わっていただいて、会員の親睦と母校音楽部の支援を目的として現在まで活動を継続し、今年で70周年を迎えております。

これまでの主な活動としては、平成14年に創設50周年を記念して、音楽部の歩みを集大成した「創設50周年誌」を発刊し、膨大な資料を一つにまとめるという大事業を成し遂げました。その後は60周年、65周年と記念誌を刊行し、今年は70周年記念誌を発刊する予定です。

一方音楽部へは外部講師招聘や定期演奏会の後援などを行っています。なお、定期演奏会ではOB・OGとの合同演奏を、歴代顧問の先生を指揮者に迎え、在校生の若いエネルギーを感じながら演奏することを楽しみにしております。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で音楽部も満足に練習できない期間が続き、定期演奏会も制約の多い中で実施するという苦しい活動が続いてきました。しかし、苦境の中で今年度は新入部員が30人を超えるという明るい話題がありました。そのことで部員の活動意欲も高まり、全日本合唱コンクールでは東北大会出場を果たし、あと少しで全国大会に手の届くほどいい演奏ができたとのことでした。深山会も同様に活動がストップして役員会も開催できず、また音楽部との合同演奏も平成29年を最後に実施できないでおります。この空白が一時も早く解消されることを願うばかりです。

過日、深山会の発足当初から顧問として18年間ご指導いただいた、故高橋功宜先生の一周忌を迎えるにあたり、「高橋功宜先生を偲ぶ会」を奥様とご子息をお迎えして開催しました。当日は首都圏の深山会の中心としてご支援いただいている阿部克行さん（昭和31年卒）はじめ創立当初からの会員を交えて、しめやかにそして和やかに故人を偲ぶことができたことをご報告いたします。

杜の都に生き続ける白聖魂

在仙白聖会事務局　晴山一秀（昭和54年卒）



校歌斉唱の様子
七十七銀行有志 吉田英之（昭和59年卒）　庄司大志（平成4年卒）　野内敦史（平成4年卒）

在仙白聖会は、宮城県内在住の盛岡一高卒業生の親睦会として発足致しました。本校創立記念日である5月13日に実施する「在仙白聖会・総会」の準備・当日の運営が主な活動となりますが、このイベントを成功させるべく、当日の内容検討そして勿論親睦を兼ね、年数回は役員・事務局での打ち合わせを行っております。

残念ながらこの三年間、コロナ禍により総会は中止となっておりますが、直近では令和元年5月13日、約60名が出席し開催されました（於 ホテルメトロポリタン仙台）。

当年度の総会は、第一部として、在仙卒業生の物故会員への黙祷から村井泰介副会長（昭和47年卒）による開会の辞、永山勝教会長（昭和41年卒）の挨拶を経て、藤澤勉常任監事（昭和53年卒）による現況の会計報告。続いては在仙白聖会会員による特別講演の時間で、ここ数年は医療関係会員による健康に関する話題が人気です。令和元年度は中里信和副会長（昭和53年卒）による「知って安心、てんかん」であり、てんかんの啓発活動にも取り組む中里副会長の熱いメッセージが大変好評でありました。

続いて大先輩・沼崎義夫氏（昭和22年卒）による乾杯の発声から第二部・懇親会の部がスタート。来賓としてご出席を賜った藤尾善一白聖会会長（昭和45年卒）からご挨拶を頂き、佐藤 有盛岡一高校長（昭和54年卒）より母校の近況報告、この辺りで会場は瞬く間に熱気を帯びて参ります！　恩師である久松 豊先生によるご挨拶を頂く頃には在学当時の気持ちが一気に甦り、ここから懇談へ。テーブル毎に同級生同士の情報交換や想い出話、学年を超えた濃密な交流の空間となりますが、この時間はあっと言う間に過ぎてしまい（諸先輩方からは時間が短すぎるとのお叱りを例年頂きます）、最後の校歌斉唱・エールに会場は最高潮の盛り上がりを迎え、佐藤 譲副会長（昭和41年卒）の閉会挨拶によりお開きとなりました。

様々な世代の在仙卒業生が会するこの在仙白聖会、大先輩方が家族に支えられながら会場に来られる姿もあり、運営をお手伝いする身としては定期的に開催する大切さを感じ入る場でもあります。コロナ禍が続く現況ではありますが、令和5年度に幸い再開の運びとなれば、先輩諸兄との新たな交歓の場として、また同級生との旧交を温める絶好の機会として、在仙卒業生のご参加を切に願う次第です。（肩書は令和元年総会当時）

＊在仙白聖会についてのお問い合わせは
事務局
箱崎英二（昭和58年卒）
連絡先
Mobile／090-9038-5990
メール／hakozaki@aa.cyberhome.ne.jp

恵　贈　（敬称略）

①寄付金（10,000円）

阿部ユキ子
（故：昭和23年卒 阿部秀雄氏 奥様）

②寄付金（80,000円）

在京白聖25会

③初めに言(ことば)ありき
宣教師ポートの東北伝道
三原圭子　長坂綏子　横山ユウ

横山ユウ（昭和39年卒）

白聖同窓会 Webページについて

hakua-dousoukai.jp

同窓会の活動を多くの会員に知っていただき、会員相互の交流に役立てたいという趣旨で、平成31年３月31日に開設しました。ぜひご活用願います。

Facebook アカウント　白聖同窓会
Twitter アカウント　白聖同窓会



訃報

昭和18年卒	高橋政巳	
昭和20年卒	出羽達	
昭和24年卒	渡邊茂	
昭和25年卒	佐藤森明	
昭和25年卒	雫石達	
昭和25年卒	根本康	
昭和25年卒	浪岡良行	
昭和25年卒	藤田崇	
昭和26年卒	久慈勘右衛門	
昭和26年卒	桑島博	
昭和26年卒	本堂寛	
昭和26年卒	村田源一朗	
昭和26年卒	森鍵多知夫	
昭和27年卒	岩泉鐵収	
昭和27年卒	櫻井英吾	
昭和27年卒	高橋昭一郎	
昭和27年卒	松田康夫	
昭和29年卒	梅津淑子	
昭和29年卒	大坂黎子	
昭和29年卒	中村幸輔	
昭和30年卒	鈴木喜士	
昭和30年卒	土屋衣子	
昭和30年卒	吉田ミヨ	
昭和31年卒	佐々木喜久雄	
昭和31年卒	早坂光平	
昭和31年卒	池田誠也	
昭和32年卒	新妻良彌	
昭和33年卒	川村矩康	
昭和33年卒	坂水康晋	
昭和33年卒	清水泰宏	
昭和34年卒	須藤義弘	
昭和34年卒	平川道生	
昭和37年卒	川村浩通	
昭和37年卒	松尾繁	
昭和38年卒	種村満	
昭和39年卒	片岡宥子	
昭和40年卒	佐藤直子	
昭和40年卒	高須博子	
昭和41年卒	辛文則	
昭和42年卒	永山知子	
昭和44年卒	松井信雄	
昭和45年卒	伊田勝彦	
昭和45年卒	本庄政美	
昭和45年卒	森邦和	
昭和49年卒	津留直彦	
昭和31年卒	阿部秋男	

心からご冥福をお祈りします。（令和3年11月1日以降にご逝去され、令和4年10月31日までに事務局にご連絡をいただいた方々です。）

白聖記念館来館者

白聖記念館来館の折には、ぜひ記帳をお願いいたします。

昭和25年卒	谷村和郎
昭和27年卒	雫石澄
昭和30年卒	坂上巖
昭和33年卒	鈴木芳子
昭和36年卒	津志田武
昭和37年卒	畑中美耶子
昭和38年卒	中軽米重男
昭和39年卒	安宅早苗
昭和39年卒	藤島明子
昭和44年卒	石埼恵二
昭和45年卒	藤尾善一（会長）
昭和46年卒	伊藤茂
昭和47年卒	森義真
昭和48年卒	後藤信夫
昭和50年卒	佐藤法雄
昭和51年卒	高橋修三
昭和51年卒	馬場秀生
昭和51年卒	林壽郎
昭和54年卒	加藤三雅
昭和58年卒	中村好子
昭和59年卒	手島瑞夫
平成9年卒	新妻拓弥
平成21年卒	菊池友也
平成30年卒	横山幸稲

令和3年11月1日～令和4年10月31日の間に記念館に来館された方々です。

事務局から

会費納入のお願い

白聖同窓会費の納入につきましては、東日本大震災が発生した平成23年以降は、年間5000件を下回る状況が続いております。

納入いただいた会費は、本会報に掲載しております決算書のとおり、白聖同窓会総会や年次代表者会議、各地区白聖会等への役員の派遣、同窓会報「白聖通信」の発行など同窓生相互の交流のために使わせていただいております。

また、新入生への入学記念品、全国大会、東北大会等に出場する各部に対する部活動奨励費、同窓生を学校にお招きして実施するキャリアアップ講演会など、現役一高生の育成支援にも有効に活用させていただいております。

つきましては、同窓生の皆様には、白聖同窓会費の納入について、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、ゆうちょ銀行から、払込みサービスの際の利用料金加算の新設により、令和4年1月17日以降の現金の払込みの際は、払込者に対し「110円」の利用料金が加算されます。何卒ご理解ご協力のほどよろしくお願いします。

なお、例年、白聖同窓会費と各地区同窓会費を混同して納入される方がおられますので、お間違いのないようお願いいたします。

『白聖通信』第42号編集委員

編集委員（◎委員長　○副委員長）
◎村上　怜（平成13年卒）
三浦　自雄（平成13年卒）
○川端　諒（平成14年卒）
有坂　一樹（平成14年卒）
藤村　恵玉（平成14年卒）

常任幹事
木村みな子（昭和45年卒）
菊地　研也（昭和53年卒）
早野俊一郎（平成13年卒）

同窓会事務局
副校長　亀山　丈（昭和63年卒）
副校長　和田　健利
学校職員　清武　英司（昭和57年卒）
瀧川小百合（昭和61年卒）
酒井　朋聡（平成2年卒）
岡崎　耕史（平成5年卒）
小瀬川　創（平成10年卒）
中村美知瑠（平成19年卒）

同窓会事務職員
吉田美保子

太鼓マークデザイン
福田　隆（昭和10年卒）

製作・岩手日報社

白聖城点描’22



今年で最後となった岩手県営球場での全校応援





今年も在校生のみの白聖祭でしたが、
個性あふれる展示やステージ発表で大いに盛り上がりました



今年も美しく色づきました



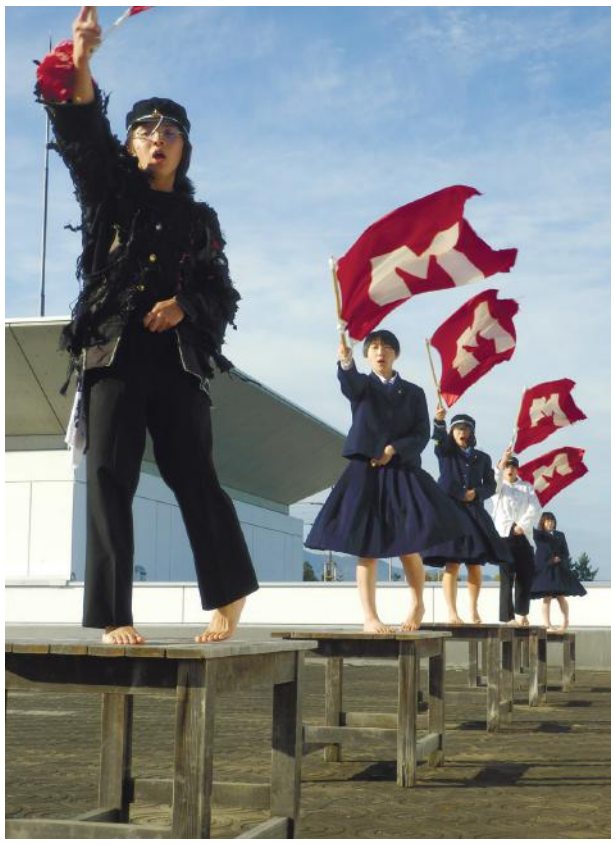
総合的な探究の時間で工藤俊介さん、佐藤瑚々花さん、
高橋由菜さん（２年）が取り組んだストリートピアノの
設置がテレビ岩手の取材を受けました



全国大会に出場する部及び個人へ
奨励費が藤尾会長より贈呈されました



短歌甲子園2022の個人戦において
最優秀賞受賞の伊藤蓮人さん（２年）
（写真中央が伊藤さん　団体戦での様子）



歴代初！女子應援團長誕生!!





猛者踊りと白聖幼稚園は健在！大運動会





ドイツのデュッセルドルフで開催された国際医療機器展にTOLICより派遣された
藤村一希さん（左写真）と坂井瑞希さん（２年）



理数科２年生つくば研修